

後援会 たより

2024年 No.53 秋

発行日 2024年 11月20日

大阪電気通信大学後援会
<http://www.dentsukouenkai.com/>

OE
CU

さびしさは その色としもなかりけり
まき立つ山の 秋の夕暮

寂蓮

2024年度 総会報告 / キャンパス探訪第24弾
新任先生のごあいさつ / インタビュー
新学部「建築・デザイン学部」始動!

2024年度 後期 行事予定表

工学部 / 情報通信工学部 / 建築・デザイン学部
医療健康科学部 / 総合情報学部

大学院 (工学研究科 / 医療福祉工学研究科
総合情報学研究科)

10月	1(火)	創立記念日 (授業日)
	12(土)	補講日
	14(月・祝) スポーツの日	授業日
	19(土)	補講日
11月	3(日・祝) 文化の日	なわフェス
	30(土)	補講日
12月	2(月)	12月期学位授与者発表 [院]
	13(金)	12月期学位授与式
	23(月)	授業終了
	24(火)・25(水)	補講日
	26(木)・27(金)	振替休日 (10/1・10/14 授業実施に伴う振替)
	26(木)~2025/1/5(日)	冬季一斉休業
1月	6(月)	授業再開
	10(金)	後期授業終了
	11(土)	補講日
	14(火)~17(金)・20(月)	後期定期試験
	24(金)・27(月)	後期追試験
2月	8(土)~ 9(日)	なわてん
	13(木)~14(金)	成績発表
	26(水)~28(金)	卒業再試験
3月	1(土)	教育懇談会
	10(月)	大学院入学試験
	14(金)	成績発表
	21(金)	学位授与式
	27(木)	新年次ガイダンス

後援会たより No.53 Contents

- P02 後援会会長ごあいさつ
大阪電気通信大学 後援会会長 石橋 美和
- P03 これからの社会をデザインする新学部始動
建築・デザイン学部長 上善 恒雄
- P04 2024年度 総会報告
- お知らせ
 - P07 2023 (令和5) 年度 事業報告
 - P08 2023 (令和5) 年度 収支決算報告
 - P09 2024 (令和6) 年度 事業計画
 - P10 2024 (令和6) 年度 収支予算
2024年度 後援会役員名簿
 - P11 2024年度会員の地域別分布状況 (大学・大学院)
在籍学生数
- P12 2024年度 新任先生のご紹介・ごあいさつ
- P26 第64回大学祭「飛躍」
- P28 施設見学・キャンパス探訪 第24弾
- P36 三文の徳食堂
- P37 トレッドミル・ウォータークーラー寄贈
- P38 後援会も自由工房に協力
- 就職部たより
 - P40 2024年度就職活動について 就職部長 土田 修
- P43 父母の声
- P44 オリコ学費サポートプラン
- P46 福島県新地町復興イベント
- P47 2025年度 表紙デザイン募集詳細
- P48 大学への問い合わせ・キャンパス案内図



この冊子に写真を載せさせていただいた学生の方は後援会事務局までご連絡ください。薄謝を差し上げます。

cover design

大学院
卒業生 橋本 和奏

concept

「時を超えて感情を共有する」ことをコンセプトに制作しました。

現代人はパソコンやスマホの画面に没頭し、ふと日常の景色を眺める機会は少ないと思います。

また、感情を表現する語彙も単純化する一方です。

しかし、ふと目に入る景色に感情を抱くことは、時代が違えど普遍的な価値観であるはずですし、先人たちが詩歌に残したその豊かな感情表現は、現代人でも共感できるに違いありません。

大学からの帰りにふと秋の夕暮れを見て抱いた感情を、寂蓮法師の和歌に託して写真に収めました。

ごあいさつ

大阪電気通信大学後援会 会長

いし ばし み わ
石橋 美和

心を備える

会員の皆様には、ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃より後援会の活動につきましてはご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

このたび2024年度大阪電気通信大学後援会総会におきまして3期目の後援会会長に選出いただきました。微力ではございますが保護者代表として学生のよりよい環境づくりに尽力していく所存でございますので皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

今年の夏はもはや恒例となりつつある「酷暑」に見舞われるとともに、「令和の米騒動」と呼ばれるようなコメ不足に悩まされることになりました。よほどの不作でもない限り、このような状態になることは想像できなかったのではないでしょうか。原因は色々あると思いますが、改めて思うのが、どのようなことが起きて、慌てず、騒がず、冷静に行動することが大切だということです。災害時等もそうですが、人生の中で時折訪れる「不意の出来事」に対して、出来る限りの準備することは勿論大切ですが、それとは別に泰然と物事に処していくように心がけていかなければいけないということです。特に、学生の皆さんの人生にはこれから色々なことが起きると思います。そのような時は心の持ち様を大切にさせていただきようお願い申し上げます。

さて、後援会の現在の活動は、保護者の声を参考にして実施しています。

部活動への活動援助金、学会発表補助など一部の限られた学生への援助だけではなく、



教育懇談会開催の援助、成績表送付時の費用の援助、出席集計システム利用のご案内送付時の費用の援助などの目に見えない支援の他、学内食堂にて100円で朝食を提供する「三文の徳食堂」や月に一度、激安価格で昼食を摂ることができる「学生応援day」など学生の食生活にも援助を行っております。他にも保護者の方がおそらく一番心配されておられる就職、進路に関しても、大学が開催している「保護者の為のオンライン就活セミナー」への援助も行っております。就職活動も私たち親世代と大きく様変わりしておりますが、大学のオンライン就活セミナーなどを通じて保護者の方々も最新の就職事情を情報共有いただき、ご家庭でも学生を応援していただけたらと思います。また大学では秋（9月）と春（3月）に教育懇談会を開催しております。大学のこと、進路のこと等不安に思われることなどございましたら、是非ご参加ください。

最後になりますが後援会では大学祭・なわフェスへの協力など様々な活動しております。

喫茶コーナーや地域のお子さま向けの遊びのコーナーの出店も行っておりますので、お気軽にお越しください。

今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

これからの社会を デザインする新学部始動

建築・デザイン学部長 上善恒雄



本年4月より建築・デザイン学部がスタートしました。2018年に工学部に設置した建築学科をコアにして、規模も倍増し、本学の特長を活かしたデジタル時代の建築とデザインをテーマとした新しい学部です。

この学部は建築の専門家として建築士を目指す建築専攻と、建築はもちろんデジタル空間も含む空間のデザインをテーマとする空間デザイン専攻の二つのコースからできています。

EXPO2025大阪・関西万博やスマートシティ戦略、Society 5.0、デジタル田園都市国家構想など未来の社会に向けて様々な掛け声が聞こえてきて、遠い目標のような印象もあるかもしれませんが、あらゆる分野がデジタル技術によって急速に確実に変革しています。毎日の仕事は電子メールで進むし、会議も買い物もWebやスマホで行い、役所や銀行もネット経由がメインです。

初等教育では子供たちがみんなタブレットPCを使ってインターネットを使って勉強していますし、広告宣伝や娯楽メディアもインターネットが主流で、デジタルが無関係な産業はほとんどありません。さらには最近開発されたばかりだと思っていた生成系AIの利用も当たり前になりつつあります。大手の建築・建設系企業でも都市を形成するあらゆる場面でのデジタルトランスフォーメーションが急務でそのための人材が望まれています。

1990年代にインターネットWebが普及し始めてから情報技術と芸術表現は不可分の相棒になっており、建築・デザインの素養とデジタルのリテラシーを兼ね備えた人材はこれからの社会の発展のために非常に重要な役割を担うことになるでしょう。

このような事情から、環境デザインを専門としていてデジ

タルゲーム学科の情報系を担当していた私、同じくデジタルゲーム学科でデザイン・アート専門の金村先生、環境科学専門で数値シミュレーションや数学・物理を得意とする中田先生、光石先生とあわせて4名が学内から新学部のメンバーとして異動し、さらに国際的に活躍している建築設計事務所や他大学から建築デザイナー4名を加えて空間デザイン専攻担当教員8名、コアとなっている工学部建築学科の8名の教員に加えて学部として16名の教員で新学部をスタートさせました。

本学部最初の1年生がこの4月に入学し、やる気満々で課外活動にも積極的に参加してくれています。また、本学部の新しい先生の皆さんも早速エンジン全開です。

例えば最若手の教員は学生さんたちとの年齢も近いせいか多くの新入生と一緒に様々な課外活動で活躍しています。オープンキャンパスの際には空間デザイン専攻新入生の有志22名が4つの班に分かれて寝屋川キャンパスの三学部のサインボードを制作しました。このサインボードは3D造形先端加工センターにご協力頂き、レーザー加工機を駆使して設計と制作を繰り返して試行錯誤の末に完成しました。そして、オープンキャンパス当日にはA号館1F展示の入り口の総合案内板になるように設置しました。新入生には最新鋭の設備を利用したものづくりを通して空間デザインの実践を授業外でも早速体験してもらえたと思います。

また、学外研修にみんなで行った岐阜養老天命反転地の案内パンフレットの制作、日経STEAM2024ではARによる地域計画ワークショップのデモや、テクノフェアでも参加者の子供たちを相手に入学・着任早々、学生たちと一緒に活躍してくれています。毎年9月ごろに本学が展示している東京ゲームショーのブースデザインも今年は新任の先生の指導のもとに新入生の有志がデザインを進めています。さらに日常的な学習においても数学が得意な教員は自分の担当とは関係なく新入生さんたちに丁寧に指導をしてくれていますし、休日を利用して街に出て建築案内をしてくれている教員もいます。

建築・デザインという我々の分野は実社会に実装してはじめて意義があると思います。社会の中で敏感に実課題を認識し、地域とも連携することで人も育ち、研究の意味がある分野です。

本学部教育を担当する教員のみなさんはそれぞれの専門性を武器に、社会の一員としての活躍を通して、本学部学生に師匠として良い影響を与えてくれると確信しています。



2024年度 総会報告

後援会からのお知らせ

2024年(令和6年)6月8日(土)、寝屋川キャンパスJ号館302教室にて2024年度定期総会を開催しました。会員95名と学内幹事、大学関係者の皆さんに参加いただきました。

午後1時から開催された総会には来賓として塩田学長にご出席を賜り、学生の課外活動、学生のコンペのデザインをもとに整備した寝屋川キャンパス中庭広場、四條畷キャンパス中庭整備等への支援に対して、お礼のお言葉をいただきました。また、大学の情報や今後の構想など興味深い内容のお話をくださいました。

塩田学長退席後、規約に基づき石橋会長が議長となり、議事に入りました。

第1号議案として、議長より2023年度事業報告について詳細な説明が行われ、質疑応答の後、議長が承認を求め、異議なく承認されました。

続いて、市田会計より2023年度の収支報告書について説明が行われ、議長よりプロジェクターを用い、活動の内容がわかる行事の写真や購入した物の画像を投影など、会計の費目ごとに、より詳しい説明が行われました。竹内会計監査より帳簿並びに関係書類を精査した結果は、正確、かつ適正であったと報告があり、質疑応答の後、議長が承認を求め、異議なく承認されました。

第2号議案として、議長より2024年度事業計画案、市田会計より2024年度予算案について提案があり、様々なご質問がありましたが時間の許す限り説明を行い、これらを含めて2024年度の事業計画および

予算は賛成多数で承認されました。

第3号議案として、寺西常任幹事より2024年度役員選出について候補者の説明があり承認されました。

続いて、承認された新役員の紹介があり、代表として石橋会長より「1年間行事に追われてこなすだけではなく、時代にあわせた学生への支援の在り方を常に模索しつつ、活動していきたいと考えております。至らない点もあるかと思いますが、役員の方、保護者のみなさまの力をお借りしながら1年間の職務を果たしたいと思っております。これからもご理解ご協力をお願いいたします。」とあいさつがありました。

総会終了後、工学部基礎理工学科環境化学専攻の齊藤安貴子教授に「生活を化学・生物学の視点から研究する実践的な学び」～現象・原理の理解から健康維持へ～と題してご講演をいただきました。

講演ではラズベリーに抗がん作用の化学物質が発見されたこと、水にはたくさんの性質があることなど、身近なお話しでとても興味深い研究内容でした。

総会、講演を終了した後は学科別懇談会が各学科別の教室で行われました。

学科の実情、進路情報などを忌憚なく聞くことが出来、普段先生方とお会いする機会の少ない保護者にとって貴重な時間となりました。

保護者の皆様には昨年度の後援会活動にご協力いただきましたこと、役員一同心より御礼申し上げます。また、学生生活を支援すべく教職員の皆様と連携して活動しております。今後とも後援会活動へのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



齊藤先生 講演の様子



2024年度 役員・学内幹事の紹介



定期総会の様子



石橋後援会会長

総会・講演会・懇談会 参加アンケート結果

- 定期総会ありがとうございました。役員のお仕事は大変だと思いますが皆様引き受けて下さり感謝申し上げます。質疑に対して会長の回答がとてもわかりやすかったです。講演会はとてもわかりやすく、楽しかったです。もっと学んでみたいと思いました。工学部の中でこのような研究をされている事も知る事ができてよかったです。
- 後援会の総会の内容について知る機会となり、参加してよかったと実感しました。電気通信大学や学生のために日々力をつくしてくださっているのだと感謝の気持ちでいっぱいです。貸与奨学金制度など文字だけではわからなかった事、実際に目でみて耳で聞く事が大切だと思いました。講演ではラズベリーに抗がん作用の物質が発見されたとの事、すごい発見です。水はたくさんの性質があるのだと、講義をきく事であっとおどろき新発見でもおもしろかったです。
- 滞りなく総会が終了出来ました。大学の職員の皆様や後援会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。また、齊藤先生のご講演は大変興味深くあつという間に過ぎてしまいました。大変面白かったです。
- 総会では、資料の読み上げだけでなく、プロジェクターで写真を映しての説明がわかりやすくて良かったです。また、各種質問に会長が落ち着いて丁寧かつ適格に回答されている姿がとても素晴らしかったです。講演会では、身近なテーマに飽きさせない話し方でとても興味深く聞くことができ、もう少し聞きたいと思いました。懇談会では、担任の先生と話しができ普段は子供からは聞けない大学生活の事を知れたので良かったです。3本だてでしたがどれも保護者にとって大変有意義でした。ありがとうございました。
- 講演会と懇談会に出席しました。講演は、聞いていて楽しかったので30分が短く感じました。生活に役立つ内容がとても参考になり参加して良かったと思いました。

後援会からのお知らせ

2023年度は、事業計画に基づいて、①家族間で相互理解を深めるための活動②学生士気向上への支援活動③大学のイメージアップと会員相互の親睦を図る活動を目標に活動をしました。

1 家庭との連携

後援会活動や大学について知って頂き、また後援会員の交流を図るため、後援会たよりを年2回(春号、秋号)発行しました。2023年の後援会たよりでは、就職部からの就職動向の紹介、学務課からの各種奨学金の案内、その他後援会活動の報告や、教員の紹介などを掲載しました。

後援会たよりの表紙デザインを募集し、学生さんと保護者の方から多数応募頂き、後援会役員による厳正なる選考の結果、2024年度の春号、秋号の表紙案を決定しました。

また、就職部主催の保護者向け就職セミナーの案内を送付し、オンラインにて第1部168名、第2部140名の参加がありました。*

その他、大学発行の「学園報」、新入生の保護者には「出席集計システムの利用方法のご案内」、ご子息の「成績表」とともに「教育懇談会のご案内」の送付などの大学行事への補助をしました。

2 学生支援

寝屋川キャンパスOECU広場West造成事業、四條畷キャンパス中庭キャンパスプラザの改修工事への寄附、並びに学位授与式にお祝い看板及びARフォトフレームを寄贈。学会発表補助やクラブ活動援助金、三文の徳食堂支援など、学生の勉学、課外活動、就職活動、学生生活アメニティ改善に対する援助を行いました。その他、白浜で開催された自由工房ソーラーカープロジェクトや福島県で開催されたテクノフェアin 新地町への学生の交通費の支援も行いました。

3 大学祭(寝屋川) なわフェス(四條畷)

2023年度の寝屋川キャンパスの大学祭ではプラカップでコースター作り、輪投げや喫茶コーナーを出展し近隣住人や学生さんに楽しんでいただきました。なわフェスはオンラインと対面での開催となり大学祭同様、工作やゲームの出店をいたしました。

4 大学探訪、大学行事参加

大学内の様子を保護者の方に紹介するため、キャンパス内探訪を行い、後援会役員が学生と共に講義を受けました。また、四條畷キャンパス、先端マルチメディア合同研究所(JIAMS)ではCG、映像編集、音像編集、モーションキャプチャーの各スタジオを見学、それぞれ体験も交えての説明をしていただきました。

2023年度なわてんはオンライン開催に加えて、寝屋川キャンパスで一部の作品の展示も行われました。出展作品を閲覧し厳正な審査を行い、後援会賞を決定し表彰、合計22点に副賞としてクオカードの協力を致しました。なわてんグランプリもオンライン開催となり、後援会賞表彰式では大西克彦総合情報学部長に会長のメッセージを代読して頂きました。

前年度に引き続き、建築学科卒業制作展において、優秀な卒業作品賞にも協力させて頂きました。

*保護者向けの就職関連情報は、いつでもご覧いただけますので、2024年後援会たより春号No.52 P.11のQRコードよりアクセスください。



懇談も、少人数だったので質問しやすく、日頃から抱いていた疑問と不安な思いを質問できたし4年間を過ごすうえで色々なアドバイスや、子供の大学での様子も伺えたので片道1時間以上かけて参加した甲斐がありました。ありがとうございました。

■ 講演会は楽しくあっという間に時間が過ぎました。懇談会もなかなか大学に来て先生とお話することがないので貴重な時間でした。

■ 学科別懇談会に何とか出席出来たのですが、名札が用意されてて親切な後援会だと思いました。保護者が少なく個人懇談のように担当の先生とお話できたので参加してよかったです。Q U Oカードまでいただいて申し訳ないです。

■ 役員の皆様、事務局の皆様総会お疲れ様でした。今年度も映像を利用した決算報告は良かったのではないかと思います。今年の講演も、齊藤先生のお話がとても楽しく面白くもっと聞きたいと思わせるものでした。そしてどんな活動に支援が来ているのかを会員の皆様に知っていただけたのも良かったです。ありがとうございました。

■ 総会お疲れ様でした。初めて参加させていただきましたが、質問をしやすい雰囲気なのが良いなと思いました。また、講演会は生活に役立つ情報が沢山あり、あっという間に時間が過ぎ、もっと聞きたいと思いました。懇談会は先生方とお話できる貴重な時間でした。大学での様子も知ることができ、どのくらいの時期にどのような事が必要かという情報を知ることができてありがたかったです。ありがとうございました。

■ 講演ですが、懇談の時間や片付けの時間があるので難しいかもしれませんが、時間がもうすこし長くとれたらよいかと思いました。懇談会ですが、総会のときのみあることをご存知の方がおりましたので、総会の出席確認の際に周知するのによいと思いました。

■ 年に一度大学の様子を見られる貴重な機会です。毎年講演をされる先生の話は普段接することのない学びがあります。今年の齊藤先生の話も大変興味深く面白かったです。ゼミで愚息がお世話になっている佐々木先生とお話し出来たことも大変嬉しく思いました。

■ 初めての総会、懇談会委員の方々の配慮、教員の懇談会、齊藤教授のお話、凄く興味深くてもっと聞きたかったです。

(ご出席いただいた会員の皆さんから沢山のアンケートをいただきましたが紙面の関係上全てを記載することができませんでした。ご了承ください。)



学科別懇談会の様子

2023(令和5)年度 収支決算報告

2023年4月1日～2024年3月31日

■ 収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	会費徴収内訳
会費	30,580,000	30,580,000	
後援会・友電会費 奨学金返還金	48,635,101	48,635,101	2023年度新生(大学) 1,487名 (@20,000) 29,740,000 ◇(大学院前期課程) 80名 (@10,000) 800,000 ◇(編入学生) 4名 (@10,000) 40,000
受取利息		585	
デビットカード還元		213	
前期から繰越	7,324,294	7,324,294	
合計	86,539,395	86,540,193	合計 1,571名 30,580,000

■ 支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	備考
通信費	3,000,000	2,998,913	成績表送付費用援助2回、後援会たより2回、学園報2回郵送料等
広報費	7,000,000	6,441,600	後援会たより(2023年春・秋号)、キャンパスカレンダー、HP更新
大学行事補助費	3,000,000	2,557,424	教育懇談会支援、別注手提げ袋(布)等
学生教育支援	1,500,000	271,810	なわてん後援会賞・各賞副賞の支援、建築学科卒業制作支援
就職対策補助費	800,000	410,405	学生・保護者向け就職関連情報の購入や提供に関する諸費用(はがき作成、郵送料)
課外活動補助費	800,000	505,132	クラブ活動援助金他
学生福利厚生補助費	5,000,000	3,386,964	三文の徳食堂、学生応援 day 支援、学位授与式お祝い看板、ARフォトフレーム等
入学記念品補助費	1,500,000	1,478,730	入学記念品シャチハタ印(学科・専攻)
研究発表等補助費	2,500,000	1,581,160	学会発表交通費等補助(学部生54名、院修士学生68名)
集会費	1,000,000	472,241	後援会総会、役員会等
行動費	700,000	402,059	大学祭・なわフェスへの支援、模擬店出店等
会員相互扶助費	500,000	496,678	弔慰金、供花、弔電(会員14名、学生1名)
事務費	1,200,000	996,553	コピー機リース料、会員送付用封筒、事務用品、消耗品、印刷費等
業務委託費	5,350,000	5,288,770	後援会業務及び書類発送に係る業務一式、取材(後援会たより)等
渉外費	200,000	107,000	退職者送別会援助金等
寝屋川・四條畷キャンパス 整備支援費	48,635,101	48,635,259	寝屋川キャンパスOECU広場ウエスト支援費、四條畷キャンパス中庭改修工事
手数料	400,000	362,010	後援会費振り込み手数料
雑費		20,110	退会者への返金
予備費	1,454,294	0	
積立金	2,000,000	2,000,000	周年事業や特に必要と認める事業
次期へ繰越		8,127,375	
合計	86,539,395	86,540,193	

現金預金	8,127,375
積立金(定期預金)	8,000,000

会計監査報告

帳簿並びに関係書類を監査の結果、いずれも適正に処理されているものと認めます。

2024年4月26日

会計 市田 ひろる



会計監査 竹内 真秀
辻本 敏行



2024(令和6)年度 事業計画

2024年4月1日～2025年3月31日

後援会は学生の保護者と教職員が連携し教学の使命達成に協力する集まりです。

家族の方々が、学園生活や大学について理解を深めることによって、家族間の相互理解を深めることを目指しています。さらに、後援会として学生と大学を物心両面で支援し、保護者同士の親睦を図るとともに、大学教職員との交流を図り、事業を円滑に進めます。

年2回発行する「後援会たより」や後援会ホームページで、学生の学園生活や大学の情報を提供するとともに、後援会が実施する様々な取り組みを通じて、参加された保護者、家族の方が、学生の学園生活及び大学について、より一層理解を深めていただけるよう努めていきます。

勉学面、家族・学友・教職員との関係など、充実した学園生活が送れ、人格的にも成長が図れるための環境作りの支援を進めるとともに、周辺地域の方々から、学生や大学に対して好感を持っていただけるよう、地域との交流を図ります。

今年度の事業計画は次のとおりです。具体的な行事や取り組みは、役員会などで検討し、提案します。積極的な参加をよろしくお願いいたします。

1. 家族間で相互理解を深めるための活動

- (1) 後援会たより(会報)の発行、送付
- (2) ご家庭へ「学園報」の送付
- (3) ご家庭へ成績表送付の援助
- (4) 教育懇談会への援助
- (5) 総会及び懇親会(先生方との意見交換等)の開催

2. 学生士気向上への支援活動

- (1) 学生の学会参加への援助
- (2) 就職活動への支援
(保護者向け就活セミナー開催、学内チャンピオンシップ表彰支援)
- (3) なわてんへの支援・建築学科卒業制作展への支援
(案内状送付及び優秀作品に対する後援会賞・副賞授与及び各賞副賞援助)
- (4) クラブ活動支援、功労サークルへの援助
- (5) 大学祭(寝屋川キャンパス)、なわフェス(四條畷キャンパス)に対する支援
(地域へのチラシ金券等援助、会員による模擬店出店等)
- (6) 学生の福利厚生への援助、勉学への志気向上の為の環境整備、学生応援 day、三文の徳食堂への協力
- (7) 貸与奨学金制度(友電会-大学同窓会組織-との共同施策)
- (8) 寝屋川・四條畷キャンパス整備支援

3. 学生のキャンパスライフを知る活動

- (1) キャンパス探訪実施
授業見学、キャンパス見学(寝屋川キャンパス、四條畷キャンパス)
- (2) イベント参加等によるキャンパスライフウォッチ
(大学祭、なわフェス、なわてん表彰等)

2024(令和6)年度 収支予算

2024年4月1日～2025年3月31日

■収入の部 (単位 円)

会費合計	29,010,000
前期から繰越	8,127,375
収入合計	37,137,375

会費内訳 (単位 円)

2024年度 新入生(大 学)	1,410名 (@20,000)	28,200,000
〃 (大学院前期課程)	79名 (@10,000)	790,000
〃 (編入学生)	2名 (@10,000)	20,000
合計	1,491名	29,010,000

■支出の部 (単位 円)

費 目	2023年度予算額	2024年度予算額	備 考
通 信 費	3,000,000	3,500,000	成績表送付費用援助2回、後援会たより2回、学園報2回郵送料等
広 報 費	7,000,000	7,000,000	後援会たより(2024年春・秋号)、キャンパスカレンダー、HP更新、クオカード
大学行事補助費	3,000,000	3,000,000	教育懇談会支援、別注手提袋(布製)等
学生教育支援	1,500,000	1,000,000	なわてん後援会賞・各賞副賞の支援、建築学科卒業制作支援
就職対策補助費	800,000	800,000	学生・保護者向け就職関連情報の購入や提供に関する諸費用学内チャンピオンシップ表彰支援等
課外活動補助費	800,000	800,000	クラブ活動援助金他
学生福利厚生補助費	5,000,000	5,000,000	三文の徳食堂、学生応援 day 支援、学生福利厚生に関わる費用
入学記念品補助費	1,500,000	1,700,000	入学記念品シャチハタ印(学科・専攻)
研究発表等補助費	2,500,000	2,000,000	学会発表交通費等補助(学部生、院修士学生)
集 会 費	1,000,000	1,000,000	後援会総会、役員会等
行 動 費	700,000	700,000	大学祭・なわフェスへの支援、模擬店出店等
会員相互扶助費	500,000	500,000	弔慰金、供花、弔電
事 務 費	1,200,000	1,500,000	コピー機リース料、会員送付用封筒、事務用品、消耗品、印刷費等
業務委託費	5,350,000	5,350,000	後援会業務及び書類発送に係る業務一式、取材(後援会たより)等
渉 外 費	200,000	200,000	各種団体支援、地域貢献活動支援等
寝屋川・四條畷キャンパス整備支援費	48,635,101	0	
手 数 料	400,000	350,000	後援会費振り込み手数料負担分
予 備 費	1,454,294	737,375	
積 立 金	2,000,000	2,000,000	周年事業や特に必要と認める事業
合 計	86,539,395	37,137,375	

2024年度 後援会役員名簿

役職名	氏名	学科	役職名	氏名	学科	学内幹事		
会長	石橋美和	2M	幹事	坂口典央	1E	副学長(工学部長)	兼宗進	
副会長	前田真弥	3W	幹事	武田由加子	1F	副学長	渡部隆志	
副会長	幸剛史	2T	幹事	野口美和	1T	情報通信工学部長	小森政嗣	
会計	市田ひかる	4N	幹事	藤丸ひろみ	1D	建築・デザイン学部長	上善恒雄	
会計監査	白崎学	1W	幹事	八尾友紀	3S	医療健康科学部長	太田暁美	
会計監査	辻本敏行	(大会計課長)	幹事	脇阪佳工	2H	総合情報学部長	大西克彦	
幹事	愛地景子	1P	顧問	伊藤登紀子		共通教育機構長	原田融	
幹事	生田昌代	2B	顧問	十河欣也		大学院代表	藤川智彦	
幹事	井爪順子	2H、2W	顧問	竹内真秀		大学事務局学事部長	岩村真吾	
幹事	井上恭子	2C	常任幹事				学務部部長	溝井浩
幹事	浦田梓	1L					学務部事務部長	不破信勝
幹事	河合真寿子	2J	就職部長	土田修	四條畷事務部長	渡邊堅一		
幹事	河洲友香里	2N	入試部次長	中村文俊	入試部次長	中村文俊		
			学事課長	矢ノ根かおり				

2024年度 会員の地域別分布状況(大学・大学院)

2024.9.1現在

府 県 別	会員数	府 県 別	会員数	府 県 別	会員数	府 県 別	会員数
北海道	5	新潟	2	鳥取	8	福岡	12
青森	0	富山	12	島根	4	佐賀	1
岩手	0	石川	16	岡山	24	長崎	4
宮城	2	福井	16	広島	20	熊本	5
秋田	0	山梨	0	山口	12	大分	2
山形	2	長野	13	小計	68	宮崎	6
福島	1	岐阜	6	徳島	29	鹿児島	4
小計	5	静岡	13	香川	32	沖縄	6
茨城	1	愛知	14	愛媛	20	小計	40
栃木	3	小計	92	高知	7	合計	5,795
群馬	3	三重	43	小計	88		
埼玉	1	滋賀	218				
千葉	6	京都	519				
東京	8	大阪	3,141				
神奈川	5	兵庫	1,090				
小計	27	奈良	349				
		和歌山	110				
		小計	5,470				

在籍学生数

2024.9.1現在

■大 学 工学部・情報通信工学部・建築・デザイン学部・医療健康科学部(医療福祉工学部)・総合情報学部

学 科	1年次			2年次			3年次			4年次			合計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
電気電子工学科	92	3	95	95	4	99	98	1	99	65	3	68	350	11	361
電子機械工学科	89	2	91	100	3	103	105	1	106	84	8	92	378	14	392
機械工学科	103	3	106	104	1	105	104	2	106	80	2	82	391	8	399
基礎理工学科	2	0	2	73	10	83	65	4	69	38	5	43	178	19	197
基礎理工学科 数理学専攻	44	3	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	3	47
基礎理工学科 環境化学専攻	47	5	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	5	52
環境科学科	1	0	1	112	10	122	97	6	103	79	3	82	289	19	308
建築学	0	0	0	94	12	106	77	9	86	71	15	86	242	36	278
計	378	16	394	578	40	618	546	23	569	417	36	453	1,919	115	2,034
情報工学科	177	9	186	178	7	185	194	4	198	142	10	152	691	30	721
通信工学科	102	7	109	98	4	102	94	7	101	71	4	75	365	22	387
計	279	16	295	276	11	287	288	11	299	213	14	227	1,056	52	1,108
建築・デザイン学科 建築専攻	54	13	67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	13	67
建築・デザイン学科 空間デザイン専攻	85	24	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	24	109
計	139	37	176	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139	37	176
医療科学科	83	11	94	101	6	107	76	10	86	56	8	64	316	35	351
医療福祉工学科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6	0	6	7	0	7
理学療法学科	40	6	46	31	7	38	37	11	48	36	6	42	144	30	174
健康スポーツ科学科	62	13	75	66	8	74	59	2	61	52	7	59	239	30	269
計	185	30	215	198	21	219	173	23	196	150	21	171	706	95	801
デジタルゲーム学科	139	18	157	148	14	162	138	19	157	133	16	149	558	67	625
情報学	93	10	103	106	14	120	92	5	97	90	8	98	381	37	418
ゲーム&メディア学科	98	22	120	115	23	138	113	18	131	107	14	121	433	77	510
計	330	50	380	369	51	420	343	42	385	330	38	368	1,372	181	1,553
合計	1,311	149	1,460	1,421	123	1,544	1,350	99	1,449	1,110	109	1,219	5,192	480	5,672

■大学院 工学研究科・医療福祉工学研究科・総合情報学研究科

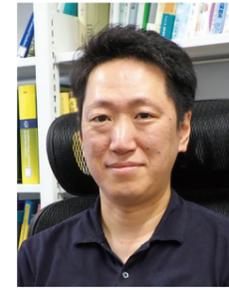
専 攻	博士前期課程(修士課程)									博士後期課程									総 計					
	1年次			2年次			合計			1年次			2年次			3年次					合計			
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計			
工学研究科	44	6	50	55	5	60	99	11	110	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	0	2	101	11	112
医療福祉工学研究科	11	4	15	8	1	9	19	5	24	0	0	0	0	0	0	2	1	3	2	1	3	21	6	27
総合情報学研究科	15	0	15	14	2	16	29	2	31	3	0	3	0	0	0	0	1	1	3	1	4	32	3	35
合計	70	10	80	77	8	85	147	18	165	3	0	3	1	0	1	3	2	5	7	2	9	154	20	174

2024年度 新任先生のご紹介・ごあいさつ

今年度4月より新しく着任された先生方をご紹介します。
先生方にはごあいさつの執筆をお願いし、または後援会の記者からインタビューさせていただきました。

お名前(所属)	担当科目
香川智修先生 (数理科学教育研究センター准教授)	ゼミナール1・2・3・4、線形代数、基礎解析学1演習、基礎解析学2演習、ゲームの数学1
前田郁弥先生 (数理科学教育研究センター テニュアトラック講師)	物理学実験、物理学1演習、学術横断講座、研究交流講座、物理学2、基礎物理学
紫垣孝洋先生 (数理科学教育研究センター特任講師)	基礎解析学1演習、基礎解析学2演習、線形代数
安永健先生 (機械工学科准教授)	発展創成実習、電気電子工学、機械工学実験1、インターンシップ、熱力学2、ゼミナール1・2・3・4、プレゼミナール、3次元CAD実習、機械工学連携講座
間下以大先生 (情報工学科教授)	プログラミング応用演習1、ゼミナール1・2・3・4、特別ゼミナール1・2、知能情報科学応用、数値計算論、プログラミング発展演習1、プレゼミナール
梅原悟先生 (建築・デザイン学科教授)	空間デザイン学入門、空間デザイン概論、建築・デザイン設計基礎実習
深川礼子先生 (建築・デザイン学科教授)	空間デザイン学入門、建築・デザイン設計基礎実習
太田琢也先生 (建築・デザイン学科准教授)	空間デザイン学入門、空間環境デザイン1、建築・デザイン設計基礎実習
寶珍宏元先生 (建築・デザイン学科講師)	空間デザイン学入門、建築・デザイン設計基礎実習、空間表現の情報技術
吉田めぐみ先生 (医療科学科特任准教授)	解剖学、医療科学入門実習、特別講義、基礎生理学、臨床検査学、生体機能代行装置学実習、臨床医学特別演習、臨床工学技士総合演習、臨床実習、生理学、生体機能代行医用機器学実習
松本光平先生 (理学療法学科特任講師)	障害学演習、医学英語1、実践理学療法学演習A・B、臨床医学特論、ベーシックキャリアデザイン、臨床理学療法学演習A・B、臨床実習4、地域健康支援実習、基礎医学実習、キャリアデザイン
榎石隆先生 (デジタルゲーム学科教授)	大学とその学び、プレゼミ、プロジェクト実習1、ゼミナール、ゲーム制作入門演習、3Dゲームプログラミング・実習、並列・ネットワークプログラミング・実習、情報セキュリティ
和田真一先生 (デジタルゲーム学科教授)	大学とその学び、3Dグラフィックス実習1・2、ゼミナール、3Dグラフィックス演習1、デザイン基礎演習、ゲーム制作実習、プレゼミ

新任先生インタビュー



共通教育機構
数理科学教育研究センター
准教授

かがわとしなお
香川智修先生

工学で不可欠なデータを 解釈・処理するために、 数学の基礎を身につけて

—数学の専門教員として今春、本学に着任されました。まず、担当されている授業の内容から教えていただけますか？

香川 「ゲームの数学」「基礎解析学」「線形代数」の3つの授業を担当していますが、これらはすべて、工学で必要とされる数学の基礎となる科目です。「ゲームの数学」と「基礎解析学」は、データを表すグラフを理解するための基礎的な方法を学びます。「線形代数」では多くのデータを同時に処理するための基礎を学ぶ科目となっています。

データを見て解釈する場面が多い理系の科目では、数学的な基礎知識が不可欠です。そのためにこれらの3つの科目を学ぶ必要があるのですが、数学としては「ゲームの数学」と「基礎解析学」は、微分積分の基礎になっています。一方、「線形代数」は代数の基礎となります。つまり、前者2科目はより具体的な細かい数学を学び、後者1科目は抽象化した広い意味での数学を学ぶ科目にもなっています。

—先生のご専門は「超関数」だとお聞きしています。どのような学問ですか？

香川 超関数とは関数の一種と捉えられがちなのですが、「関数を超えている」と表記するように、関数とは別のものです。関数というのは $y=f(x)$ と書いたりしますが、 x の値が1つ定めると y の値が1つ定まるのが関数です。しかし y に ∞ (無限大)という値を取ってしまうとそれはすでに関数ではないのです。そういうものを例えば瞬間的なエネルギーを関数で表そうとすると、理論的に考えると難しいわけです。いわゆるデルタ関数と言われる物理の世界に出てくる“関数もどき”があるのですが、それは数学の世界では扱えませんでした。そこで約半世紀前のある学者が「超関数」という分野を立ち上げることで、数学的な解釈ができるようになりました。

学生時代、世間で「超〇〇」という言葉が流行ってしまって、そんなタイミングで当時の指導教官から「超関数」という分野があるということを知り、興味を持ったのがこの道に進んだきっかけですね。

—数学の研究者ひとすじに歩んでこられたと思いますが、ご苦労もあつたかと思ひます。

香川 高校までの数学と異なり、大学の数学は「理屈を理解したうえで、いかにして証明できるか?明確に伝えることができるか?」。ここが大きく違います。大学の数学科に進学した当初は、教科書の最初の3

行がわからなかった。1行を理解するのに時間もかかってしまって、授業についていくのがひと苦労でした。ゆっくり時間をかけて考え、理解してやっと自分のものに落とし込んだと思ったら、また一難。「それでは説明してください」と言われるとそこで立ち止まってしまうのです。やっとのことでインプットしたと思っていたのに、アウトプットができない。「実は深いところまでは理解していなかったんだ」という厳しい現実と直面し、次はアウトプットするために労力を費やす...そんな繰り返しでした。このように大学の数学はすぐに答えがでるものではありません。著名な学者が何年もかかってやっと解くことができた...それは珍しいことではないのです。

—先生にとって数学という学問の面白み、魅力はどんなところにありますか？

香川 数学の面白みのひとつは計算をし、パズルのような感覚で答えを導くことにあります。時間をかけて時に苦しみ、時に楽しみながらひとつの課題をクリアした瞬間、今まで見たことのない景色がぱっと広がるんですね。現在、専門としている研究もそういった部分があり、計算することで証明できるところが楽しいと思っています。

—長年にわたって様々な大学で研究生生活を送られ、教鞭をとってこられました。本学に着任されて約半年、学生に対してどのような印象をお持ちでしょうか？

香川 比較のおとなしくて、真面目な学生が多いという印象です。授業中も真面目な態度で聞いてくれるのですが、数学に苦手意識がある学生は長い時間をかけて理解することに早い段階で見切りをつけてしまうことが少なからずあります。私自身も学生に対して、できるだけわかりやすく伝えるように授業に工夫をしていますが、わからないことがあつたらもっと積極的に質問してほしいなあと思います。そうすることで学生たちはさらに高みを目指し、成長していかると確信しています。

—本学で学生時代を過ごし、社会に羽ばたいていく学生に対して、先生のご経験を踏まえてのアドバイスやメッセージをお願いします。

香川 国内の様々な大学で研究生生活を送り、多国籍の移民が暮らすカナダ・トロントでの留学を経た経験から言えるのは多様な価値観を受け入れることの大切さです。社会に出ると多くの人と話し合い、一緒に仕事をしていく場面が多く出てきます。自分がどのような人間であるかも、多くの人と触れ合うことで気づかされることもあるでしょう。学生時代に様々な人と知り合い、仲良くなり、色々な人と付き合える人になってほしい。そして、世のため人のために自分は何ができるのか——。これからの自分を想像し、成長できる人間になってくれることを願っています。

プロフィール

上智大学理工学部数学科卒業
上智大学大学院理工学研究科数学専攻 修了
東京理科大学大学院理工学研究科数学専攻博士課程 修了
(在学中 カナダ・トロントのヨーク大学に研究生として留学)
博士(理学) 東京理科大学取得
2018年 神奈川大学工学部情報システム創成学科特別助教
2022年 公立諏訪東京理科大学工学部共通マネージメント教育センター講師
2024年 大阪電気通信大学准教授に就任

新任先生からごあいさつ



共通教育機構
数理科学教育研究センター
テニュアトラック講師

まえ だ ふみ や
前田 郁 弥 先生

電波で迫る宇宙の謎

2024年4月より、共通教育機構 数理科学教育研究センターの講師（テニュアトラック）として着任いたしました前田郁弥と申します。皆様にご挨拶の機会を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

私は、熊本市出身で、京都大学に9年間在籍し天文学を専攻しておりました。その後、東京・三鷹市にある東京大学 天文学教育研究センターにて3年間、研究員として天文学の研究に従事しておりました。学生時代には、鴨川沿いに住み、頻りに京阪電車を利用していたこともあり、再び京阪電車が身近な生活に戻り、関西に帰ってきたことを実感しております。

東京では、天文学の研究に加え、非常勤講師として大学1年生向けに物理学の講義と実験を担当しておりました。本学においても、共通教育機構の一員として、大学1年生向けの物理学の授業を担当させていただいております。学部や学科を問わず、すべての学生が2年生以降の専門分野の学習にスムーズに移行できるよう、学生たちの基礎力向上に努めてまいります。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

さて、私の専門は「電波天文学」です。電波とは電磁波の一種であり、電磁波は波長（周波数）によってさまざまな呼び名があります。私たちが肉眼で見える「光（可視光）」は、その中でもごく一部です。例えば、レントゲンに使われる「X線」、日焼けの原因や消毒に使われる「紫外線」、リモコンや暖房に利用される「赤外線」、そして、テレビやラジオ、携帯電話、Wi-Fi、GPS、レーダーなどの通信システムで利用される「電波」も電磁波の一種です。これらの電磁波のうち、可視光線以外は目に見えませんが、すべて光の仲間です。そして、この電磁波は宇宙からも地球に届いています。夜空の星が見えるのは、遠くの星が放つ可視光が地球に届いているからです。電波天文学は、その宇宙から届く電波を電波望遠鏡で捉え、宇宙について研究する分野です。

宇宙には電波を放つ天体が数多く存在しますが、私はその中でも「分子ガス」と呼ばれる水素分子が主成分のガスが放つ電波を捉えて研究しています。分子ガスは、宇宙を研究する上で非常に重要な物質です。なぜなら、分子ガスは太陽や夜空の星々の原材料であり、星が誕生する過程に深く関わっているからです。分子ガスが放つ

電波を詳しく調べることで、星がどのように誕生するのか、その謎に迫ることができます。

我々が住む天の川銀河には、太陽を含む約2000億個の星が存在すると言われていています。また、宇宙には天の川銀河のような銀河が観測できるだけでも数千億個以上も存在しています。つまり宇宙には途方もない数の星が存在することになります。それらすべては分子ガスから誕生しています。私は、宇宙にあるさまざまな銀河から届く分子ガスの電波を捉え、銀河の中で分子ガスから星がどのように誕生するのかを研究しています。

現在、地球上にはいくつかの大型電波望遠鏡が存在し、私は主にチリのアタカマ高原（標高5000m）にあるアルマ望遠鏡（写真1）と、長野県南牧村にある野辺山45m電波望遠鏡（写真2）を用いて研究を進めています。

アルマ望遠鏡の観測は現地の専門スタッフが行っていますが、野辺山45m電波望遠鏡については自らの手で動かして観測しなければなりません。今でこそ研究室からのリモート観測をする機会が増えましたが、実際に現地に行き観測を行う際には、直径45m（ビル15階相当）の望遠鏡を間近で見ると、その迫りに毎回ワクワクさせられます。大学院生の時に初めて観測を行った際、このワクワク感が電波天文学の道に進むきっかけとなりました。

本学では、電波を使った通信分野の技術を学ぶ学生が多いですが、私は電波天文学の視点から、宇宙から届く電波の魅力を伝えたいと考えています。野辺山45m望遠鏡は、学生が観測体験をすることができる貴重な施設です。いずれは学生を実際に連れて行き、私が感じたワクワク感を共有しながら、多角的な視点で「電波」についての理解を深めてもらえればと思っています。



写真1 アルマ望遠鏡（写真提供：国立天文台）



写真2 野辺山45m電波望遠鏡（写真撮影：前田講師）

プロフィール

2021年：京都大学大学院 理学研究科 物理学・宇宙物理学 専攻 博士課程 修了
2021年：日本学術振興会 特別研究員 PD（所属機関：東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター）
2024年：大阪電気通信大学 共通教育機構 数理科学教育研究センター 講師（テニュアトラック）

新任先生からごあいさつ



共通教育機構
数理科学教育研究センター
特任講師

し がき たか ひろ
紫 垣 孝 洋 先生

学生の「分かった！」という
反応こそ最大のモチベーション

〈挨拶と自己紹介〉

2024年4月に数理科学教育研究センターに着任した紫垣と申します。2022年から2年間、本学の非常勤講師として講義を担当しておりますので、愛着のある本学で再び教育に携わる機会をいただき嬉しく思っております。ちなみに兵庫県姫路市出身ですので、講義中は熱くなると関西弁が強くなる癖があります。

大学時代には指導教官の人柄に魅かれ、完全WKB解析という複素解析の分野に足を踏み入れました。複素数の世界の微分には、実数の世界の微分とは少し異なる性質があり、たとえば「1回微分できると何度も微分できる」性質や「微分できるように関数の定義される範囲を広げる方法（解析接続）が1通りに決まる」性質があります。その点も複素解析に魅かれた理由の一つです。

〈完全WKB解析とは〉

まず微分方程式の微小なパラメータに関する級数解（WKB解）を考え、これを最初の数項で打ち切って近似する手法が物理学ではWKB近似と呼ばれています。WKBというのは3人の物理学者の名前の頭文字に由来していて、WKB近似によって量子力学としては有用な結果が得られます。

一般には級数の項をたくさん足すほど「良い近似」になっているので、無限級数のすべての項を「完全に」考えればもっとよく分かるのではないか、という理念に基づいて発展したのが完全WKB解析です。ただし、項を無限に足すと、必ずしも意味のある値を持つ（収束する）とは限りません。そこでBorel総和法を用いてWKB解に数学的な意味を与える、という工夫を行います。

一定の条件のもとで、(数学的な意味を付与した) WKB解がどの領域まで微分できるように延ばせるか、また領域の境界を超えて延ばすとどのように変化するか（接続公式がどう記述されるか）が知られています。

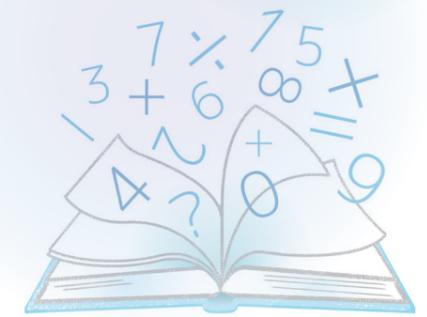
一方、解の遠方での条件から興味のある特定の値（固有値）を考察するのが固有値問題です。私は固有値問題を完全WKB解析の手法で扱うことに興味を持ち、いくつかの具体的な問題について研究を進めています。

〈教育について〉

本学の学生に対しては、「分かってほしい」という気持ちを持った学生が多いという印象を持っております。「分かった！」と思った学生の目の輝きが変わっていく姿も、幾度となく本学で見えてきました。理解の進んだ学生の嬉しそうな反応を見ることが、教員として何よりのモチベーションです。

昔から人に教えることが好きで、大学・大学院時代には中学・高校の数学の教員免許も取得しました。また大学院時代から、本学以外でもいくつかの教育機関で講義を担当してきました。

大学院時代には、指導教官の急逝の後、ご縁に恵まれて著名な研究者に根気強く指導していただきました。私が研究を通して味わった難しいことが分かる喜びを、一人でも多くの学生に味わってもらえるよう、講義や質問対応などの教育活動にも力を注ぐつもりです。



プロフィール

2022年 神戸大学 大学院理学研究科 博士課程後期課程 修了
2022年 神戸大学 大学院理学研究科 学術研究員
2023年 関西学院大学 大学院理工学研究科 博士研究員
2024年 大阪電気通信大学 数理科学教育研究センター 特任講師

新任先生からごあいさつ



工学部
機械工学科
准教授

やす なが たけし
安永 健先生

モノづくりの視点から
新たなエネルギーシステムを創造

2024年4月に機械工学科へ着任した安永 健と申します。後援会たよりを通して、皆様へのご挨拶の機会を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

私は同志社大学工学部エネルギー機械工学科を卒業後、出身地である佐賀県の佐賀大学大学院に進学して学位を取得しました。その後、三菱重工業株式会社に入社し、海水から淡水を製造する逆浸透膜を利用した海水淡水化プラントのプロセス設計・開発を担当していました。約20万m³/日規模（日本では約65万人の生活用水に相当）のプラントに携わっていたため、建設や開発の現場も外周数kmになります。卓上の設計だけでなく、サウジアラビアでの建設現場での設計対応、カタール、クウェートなどでの研究開発や客先との交渉にも携っていました。研究開発では、逆浸透膜に通水する前の海水の前処理装置、逆浸透膜に高圧で海水を送り込む高圧ポンプや高圧の濃縮海水からエネルギーを回収する動力回収装置の設計・開発によって、薬品や電力使用量を出来るだけ少なくするプロセスを目指していました。海水淡水化プラントの運用は地域住民にとっては死活問題で、特にサウジアラビアではプラント域内の情報が軍事機密の扱いであることに驚きました。カタールでの研究開発現場は高温で気温45℃を超える過酷な環境でしたので、日本の近年の気温が高い夏もあまり暑く感じない気がします。一方、海洋エネルギーを利用した発電装置の開発も担当しており、産学の共同研究で波力発電装置を開発していました。概念設計から基本構造の性能試験、最終的には海上試験まで実施しました。いかに高性能で安く製品を提供し、事前に可能性がある不適合を防ぐか、という“モノづくり”は代えがたい経験になったと思っています。また、新入社員のOJT(オンザ・ジョブ・トレーニング)の教育指導を2年間実施しており、社会で必要な一般的なマナーや知識と、報告書を含めたコミュニケーションの取り方を教育していました。学生から社会人へと成長する間で、新入社員の意識が変化する姿を観察できたことは、大学での教育にとっても大変貴重な経験になったと考えています。

本学では、エネルギーシステム研究室と称し、熱工学(熱力学/伝熱工学)を基盤として、工場やエンジンの排熱、地熱水および海洋温度差などを利用した熱機関を用

いたシステムやその構成機器の研究および温度差を利用した海水淡水化の研究を行っています。装置全体の性能の視点から、システム全体の熱バランスや主要構成機器である熱交換器の伝熱促進や形状の最適化によって高性能なシステムの実現を目指しています。

ここで、海の波や潮の流れおよび最近活発な洋上風力を利用した発電はお聞きになられた方が多いと思いますが、海洋の温度差の熱エネルギーはあまり馴染みがないかもしれません。海洋温度差発電とは、海の表層と深層(600m～1000m)の約20℃程度の温度差を利用して発電するシステムで、低炭素な再生可能エネルギーの一つです。発電の際には、沸騰する温度が低いアンモニアや代替フロンなどの冷媒を蒸発・凝縮させ、その蒸気の流れでタービンを回す動力で発電します。発電の際、“エネルギーをつくる”と考えてしまいがちですが、エネルギーの総量は変わらないのが自然の法則ですので、エネルギーが熱から動力に変換されることとなります。我々の世界では、エネルギーは様々な変換過程を経て、質の低い低温度の熱エネルギーに代わります。エネルギーの質は目に見えず、非常に捉えにくい概念です。例えば水の温度を1℃上昇させるエネルギーは、同量の水を約420mの高さに持ち上げるエネルギーと同量です。しかし、実際には20℃と21℃の水の温度差から得られる動力は、理想的なエネルギー変換でも同量の水を僅か約40cm持ち上げるだけであり、残りは熱エネルギーのまま動力に変換できません。これは、動力と熱のエネルギー変換過程において、エネルギーが熱の形態に代わるとエネルギーの総量は同じでも質が低下することを示します。海洋温度差発電の場合、利用できる海水の温度差は僅か20℃程度です。しかし、海水の量は膨大なので、世界の電力使用量の約1.8倍の発電ポテンシャルがあると示されています。また、取水した海洋深層水は冷たく、細菌も極めて少ないため、冷熱利用、海水淡水化や水産業として複合利用することも期待されています。冷たい深層の海水を空調に利用した場合、冷房機器より電力消費量は低く、実際にホテルの空調で消費する電力使用量を85%低減した事例もあります。このように、熱と動力は使い方を工夫することで、エネルギーを更に有効に利用できる大きな可能性があります。

海洋温度差発電だけではなく、熱エネルギーのマネジメントを中心に、持続可能な社会に貢献するシステムや機器の研究・開発を行います。理論だけでなく、常にモノづくりの視点を大切にして、学生と楽しく過ごしながら、共に成長できる環境を構築したいと考えています。

プロフィール

2008年 佐賀大学大学院工学系研究科エネルギー物質科学専攻 修了
2008年 三菱重工業株式会社
2015年 佐賀大学海洋エネルギー研究センター 助教
2022年 佐賀大学海洋エネルギー研究所 助教
2023年 佐賀大学海洋エネルギー研究所 准教授
2024年 大阪電気通信大学工学部機械工学科 准教授

新任先生からごあいさつ



情報通信工学部
情報工学科
教授

ました とも ひろ
間下 以大先生

コンピュータビジョンで
世の中を記述する

2024年4月に情報工学科に着任した、間下と申します。どうぞよろしくお願いたします。私は大学から大学院まで大阪大学基礎工学部/基礎工学研究科で学び、その後も大阪大学で18年勤務してきました。この度、本学情報工学科で教育・研究の機会をいただき、大変光栄に思っております。

私の専門分野はコンピュータビジョンです。聞き慣れない分野かもしれませんが、人工知能に関連する一分野として、画像を扱う人工知能の研究分野です。

コンピュータビジョンで対象とするのはもちろん画像なのですが、応用先は多岐に渡っています。画像に何が映っているかという画像認識のような技術だけでなく、画像から写っている物体の形状を復元するような計測に関連する技術や、画像の状況を人工知能を使って言葉で説明するような研究、映像を扱うような研究なども含まれます。また、物体の色や光、カメラ等の情報をつかって画像を作る技術がコンピュータグラフィックスであるのに対して、画像からカメラの情報や写っている物や光を推測する技術がコンピュータビジョンになります。つまり、コンピュータグラフィックスとは問題の方向が反対になっている技術とも言えます。

特に近年では、現実のモノや環境からデータを収集し、計算機上に双子のようなモデルを再現する「デジタルツイン」という概念が注目されています。そのデジタルツインのモデルモデル生成にもコンピュータビジョンの技術が使われます。

私自身の研究はこういったデジタルツインの生成で使われるような、3次元の形状を扱う研究を主に対象としています。対象となる物や領域の形状をレーザーやカメラ画像によって複数のポイントや角度から3次元計測し、そのデータを1つの3Dモデルに統合していく位置合わせとばれる技術。センサでは計測しきれない、対象の裏側や影になっている部分を推測する、欠損補完。計測で得られるデータからコンピュータグラフィックスで利用できるデータに変換する技術。など、3次元物体に関する様々な研

究に取り組んでいます。

私の大きな研究目標は「世の中を記述する」ことです。人や物を計算機上に再現し、さらにその変化を持続的に記述し続けることで、過去に戻るVRタイムマシンも可能になります。そういった未来の実現を目指して学生達と研究に取り組んでいきたいと考えています。



プロフィール

2006年3月 大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻博士課程 修了
2006年4月 大阪大学サイバーメディアセンター 特任研究員
2007年4月 大阪大学 産業科学研究所 特任研究員
2008年4月 大阪大学 サイバーメディアセンター 助教
2013年4月 大阪大学 サイバーメディアセンター 講師
2017年7月 大阪大学 サイバーメディアセンター 准教授
2024年4月 大阪電気通信大学 情報通信工学部情報工学科 教授

新任先生からごあいさつ



建築・デザイン学部
建築・デザイン学科
空間デザイン専攻
教授

うめ はら さとる
梅原 悟 先生

決して裏切らない経験をもって、
建築空間をつくりだす

2024年4月に建築・デザイン学部 建築・デザイン学科空間デザイン専攻に教授として着任いたしました梅原 悟と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

大阪電気通信大学として15年ぶりの新学部立ち上げということで、着任する1年半前から準備してきて、ようやく1回生を迎え、前期を終えたところです。

自分は、小さいときからピラミッドなどの遺跡に魅力を感じ、その影響もあって大学では建築設計を専攻し、年中電気が消えることのない不夜城と噂されていた製図室で四六時中、設計課題と向き合っていました。初の海外は香港（イギリス領）、壊される直前に九龍城砦を見に行きました。以降、長期休みになるとバイトし、貯めたお金でバックパッカーとしてヨーロッパやアジアを旅して、それまで決して得られなかった経験がきっかけとなり、大学院修了後、どうしてもデンマークに住みたいという思いからコペンハーゲンへ留学しました。

デンマーク王立芸術アカデミーでは、日本の大学と違って、むしろ自分から講義や先生を求めに行くというスタイルで、右も左も分からない中、周りに助けをもらいながら、なんとか前に進んでいました。また学生も多種多様で、当時、高校生からそのまま上がってくる人は少なく、他の専門や経験を積んでから来ている人が多く、中には兵役後という人もいたり、修士後で建築に関する知識は高い自分と、年齢も上、人生経験も豊富な彼らとの違いを感じたのは衝撃的でした。デンマークでは建築や文化のみならずスベアタイムを大事にする広義でのライフスタイルを体験することができました。

その後、オランダ・マーストリヒトにある建築設計事務所にて13年間勤務しました。世界的に名が知れたオランダ人建築家でしたが、事務所はオランダ人が約半数、他もヨーロッパから来ている人ばかりで、自分が日本人初でもヴィザが必要な初めてのスタッフであったため、滞在・労働許可証の取得にはとても苦労しました。ワークシェアリングでも有名なオランダだけあって、設計事務所として労働環境が良く、基本的には18時まで、週末は休み、年間20日間の有給休暇などでしたが、設計チーム、特にドイツ人と自分は、そんなことも言ってもらえない状況がずっ

と続いていました。もちろん大変でしんどいながらも、がんばった分だけ数多くのプロジェクトに携われるとても有意義な時間でした。働き始めて1年経った頃、初めてプロジェクトリーダーとしてアムステルダムに計画された高層ビルを担当になりました。若干27歳でオランダ語も話せない自分が、オランダで（当時）最も高いビル（150m）となるプロジェクトのリーダーというのは、後から考えてみると、少なくとも日本ではあり得ない状況でした。残念ながら長年掛けたプロジェクトも最後はリーマンショックでキャンセルになってしまいました。他にも、建築を中心に都市計画からプロダクトデザインまで、国際建築設計コンペも含めて、さまざまな国のプロジェクトに関わることができました。その中でもフローニンゲン（オランダ）のサッカースタジアムではチームに日本代表の選手が何人か所属していたお陰で、今でもたまに日本のTVで映ったのを楽しく見ています。

日本のプロジェクト（東京）を機に帰国し、それを担当しつつ、自身の建築設計事務所をスタートさせました。これまで住宅など小規模建築の設計を中心にリノベーションや家具のデザインなども手がけています。個人のクライアントとプロジェクトを進めることの直接的なコミュニケーションが、難しさや大変さもありながらも、最後は楽しさに繋がっていていると感じています。

また帰国してから、縁あって、いくつかの大学から非常勤講師に声を掛けていただき、いろんな大学のいろんな学生を見て、いつもどんな成長をしているのか楽しみにしています。各大学、各学年、各教員、それぞれ違うやり方で、課題内容や進め方も含めて、本学での参考になっています。

こういった自身の経験から、建築・デザイン学科の学生には、建築デザインの勉強のみならず、世界にも目を向けて欲しいと願っています。当時、自分が学んだ大学では出来なかったこともあり、本学では国際交流や留学なども学生とともに積極的に取り組んで行ければと思っています。

建築空間には人を変える力がある。

そして、その建築空間には可能性がある。

経験は身となり、決して裏切らない。

そんな思いに共感・理解してくれる学生が増えていって欲しいと考えています。

プロフィール

一級建築士、オランダ建築家協会登録建築家 日本建築家協会会員、日本建築設計学会会員、京都府建築士会会員	
1994年	京都工芸繊維大学 工芸学部 造形工学科 建築専攻 卒業
1996年	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 造形工学専攻 修士課程 修了
1996-1997年	デンマーク王立芸術アカデミー スクールオブアーキテクチャー 留学
1998-2013年	Wiel Arets Architects 勤務（オランダ）
2010年-	UME architects 一級建築士事務所 主宰
2024年-	大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科空間デザイン専攻 教授
非常勤講師	立命館大学、近畿大学（大阪公立大学）、大阪工業大学、京都府立大学、奈良女子大学

新任先生インタビュー



建築・デザイン学部
建築・デザイン学科
空間デザイン専攻
教授

ふか がわ あや こ
深川 礼子 先生

写真：宮畑周平

『ものを作る楽しみ』、
それが建築家としての仕事の原点

ー建築家として活躍されている深川先生は今春、実務家教員として本学に着任されました。まず、担当されている授業の内容から教えていただけますか？

深川 私が所属している空間デザイン専攻は、建築をベースにしながらインテリアから都市まで領域を広げた分野をカバーしています。2年生を対象とした「建築都市デザイン」では、建築・設計から都市の空間まで少しスケールの大きな部分になります。具体的には建物から公園、「みち」（歩道や駅前広場など）といった公共の都市のデザインです。物理的な空間としてデザインするところを主に授業で展開しています。

また、3年生を対象とした「プロジェクトデザイン」では、「ここに何が必要か？」「どうやって作っていくか？」といった建設に関わるプロジェクトの企画のところからデザインすることを学びます。さらに「設計演習」では建物を実際に設計するという課題を担当しています。

ー現在、建築設計事務所を運営されていますが、独立されるまでの経緯を教えてください。

深川 大学は工学部金属工学科出身で、卒業後は重工メーカーの航空宇宙事業部で4年間、金属材料の研究をしていました。そのうち建築に興味を持つようになり、東京理科大学に入学。建築の勉強をしました。その後東京大大学院に進学し、修了後は設計事務所です員としてクリニックや集合住宅などの設計を担当していました。それから4年働いた後、2008年に現在の建築設計事務所を神戸に開設しました。

ー先生が手がけられた作品「六甲最高峰トイレ」が今春、「第22回環境・設備デザイン賞」優秀賞を受賞されました。

深川 六甲山の最高峰に、トイレと休憩所を兼ねたレストスペースとして作りました。それまでは山頂付近には日差しを遮るものがなかったのですが、レストスペースが完成してからはお弁当を広げたり、休憩を取ったりなど、登山客の方々に利用していただいています。

ーほかにどのような建築物を手がけておられるのですか？

深川 自治体と契約した公共の建物が多いですね。駅前広場や消防署、温泉施設などです。高齢者施設や企業の新社屋なども担当

させていただきました。私の事務所では家具やインテリア、住宅、公共建築、まちづくりなど、多様な規模と方法で「環境のデザイン」を行っています。構造や設備、照明やランドスケープなど専門の協力事務所とチームを組んで作業を進めています。私は「いかに「まち」と接続していくか」に重点を置いています。ご依頼くださったクライアント（又は建築主）はそれぞれに構想をお持ちですので、私は「建物としての機能を満たすだけでなく、その周辺にいい影響を提供できるか」を念頭に置き、それを実現するためには全体のデザインをいかにして統合していくか……。それをイメージしながら仕事を進めています。

ー先生は建築・設計・デザインのお仕事のどんなところに魅力ややりがいを感じておられますか？

深川 人の環境を作ることを考えながら企画設計し、それが目に見える形で実現するということは魅力的ですし、同時に責任も重いです。そして、自分が携わった建築や都市の空間によって、「まち」の人々のふるまいや人の流れが変わるのを実感したり、地域としてどんな風に使われていくのかを見守っていくことにやりがいを感じます。

また、建築家としては純粋に「ものを作る楽しみ」、これがこの仕事の原点であり、大きな魅力でもあります。私は大きい建物をディレクションするだけではなく、とても細かいところまで現場の職人さんたちと打ち合わせを重ねます。そうすることで完成した建物が、私の思っていたものそのものが再現された時は、とても感慨深いものがあります。

ー本学の学生の印象をお聞かせいただけますか？また、どのように学生時代を過ごしてほしいと思われますか？

深川 真面目で素直な学生が多いように思います。専門の基礎を身に付けること、学び方の手がかりを得ることは大学時代にやっておかなければいけない大切なことです。一方、学生たちは守られた環境にいます。これは大学の特長のひとつです。学生の皆さんはできるだけたくさんの挑戦をしてください。時には失敗もあるでしょう。でも立ち直ってまた挑戦するのです。自分たちは大学と言う環境に守られているからこそ、できるのですから。そのような機会をたくさん作り、挑んでいかれることに期待しています。

プロフィール

1992年	関西大学工学部金属工学科卒業
1993～1997年	重工メーカーの航空宇宙事業本部で金属材料を研究
2001年	東京理科大学工学部第二部建築学科卒業
2004年	東京大学大学院新領域創成科学研究科修了「株式会社飯田善彦建築工房」勤務
2008年	神戸を拠点とした建築設計事務所を設立。以降、建築家としての活動をしながら、関西4大学の非常勤講師を歴任。現在は建築設計事務所「株式会社 ofa」（神戸市）の代表取締役を務める。
2024年4月	大阪電気通信大学建築・デザイン学部建築・デザイン学科空間デザイン専攻 教授に着任。一級建築士

新任先生インタビュー



建築・デザイン学部
建築・デザイン学科
空間デザイン専攻
准教授

おお た たく や
太田 琢也 先生

何もないとこに新しい地図を作る。 建築の醍醐味に魅せられて

一建築・デザインの実務経験が豊富な教員として今春、本学に着任されました。まず、先生のご専門テーマと本学で担当されている教育内容について教えてください。

太田 「設計事務所にいた時は建築の設計やCGを描いたりするのがメインの仕事でした。その経験の流れで、今春より本学で建築のCGやアニメーションといった表現を教えています。担当している授業は「空間環境デザイン1」「建築・デザイン設計基礎実習」「3次元CAD/DTP実習」です。空間環境デザイン1では、主に環境面における配慮や都市・建築の在り方について学びます。

自分たちの暮らしの中で、建物を使っている時に発生するエネルギーもあれば、建物自体が太陽光や風、温度、湿度といった周りからのエネルギーを受けることもあります。そのような現実的な環境面の話、そして空間から視覚的・体感的な影響をどのように受けるかといった心理的な側面についても授業で理解を深め、環境との共生に向けたデザイン手法について学びます。この授業では、建築士試験における5科目の内、「計画」と「環境」という2つの単元をメインに教えていく予定です。

また、基礎実習やDTP実習では建築のビジュアル(CGやパース、図面)表現、プレゼンテーションボードや資料のレイアウトデザインなど、より実践を意識した内容に取り組んでおり、最新のデザインや表現テクニック、分かりやすいプレゼンテーション技法などを教えていきます。

一先生が建築という学問分野に進まれたきっかけとは？

太田 工業高校では建築を学んでいました。県立高校でしたので(当時は未だ)CADは導入されておらず、私は手描きで設計図やパースを描いていました。大学ではもう少し幅の広いデザインの分野を研究したかったので、工学部の環境デザイン学科(当時)に進学しました。

1~2年生では造形、美術、布系のタペストリーなど平面から立体造形、陶芸までひととおり学びました。3年生になると建築系に進み、4年生では建築の歴史系の研究室へ。そこでデザインを通じて建築史や建築論の学びを深めました。海外では建築とは哲学であり、論述がベースにあるの(べき)かという、テクニックをメインに解釈されてきました。ですので、日本は技術力は優れているのですが、そもそもの論術があつたうえで技術が成り立たないと建築としてのバランスがおかしくなるのです。そこに興味を持ち、論述の分野を探求しようと思いました。

一建築・デザインという先生のご専門領域で、いちばん魅力的でやりがいを感じるのとはどんなところですか？

太田 建築という意味で言いますと、その場所に新たな地図を作る仕事であることですね。例えば住宅を例にとると、原っぱだったところに自分の家を建てるのも地図を変えることになりそうですね。

実は以前、大阪駅前のグランフロント大阪の設計を手掛けていましたが、何もなかった操車場から人が流れていく、色々な人が過ごす空間を作るといことがとても刺激的で面白かったです。

また、「グラングリーン大阪」という複合商業施設のビジュアライズ(完成予定図のCG)にも携わりましたが、設計者やプランナーたちと何度も意見を交わし、それまで誰も想像しなかった20年後の緑に包まれた大阪をイメージして描きました。都心部の駅前に、あれだけの巨大な緑地帯ができるのも世界にも例を見ません。とても刺激的な体験でした。

一社会人時代のご経験で、今もご自身の中で活かされていることはありますか？

太田 建築のCGやパースというビジュアル化系の仕事を通して私自身の礎となったことがあります。前職の会社で上司から言われて、今も心に残っている言葉です。

「だれでも完成予定図は描ける。しかし、建築の場合は施主様の前でプレゼンをしなければならない。すでに完成したのを見せるのとは異なり、建築はこれから作らなければならない。見る人によって様々なバックグラウンドがある中で皆が同じ方向を見ることができ、なおかつ施主に『いいね』と納得してもらうことが重要なのだ」と。

その言葉はずっと私の中に根付いています。

図面以外では、そのビジュアルが施主と建築を繋ぐ初めての“お見合い写真”になるため、ビジュアルとして、説明図として、作品として、そこに何を表現すべきかを念頭に置いて、仕事をしていました。

建物だけを説明する画ではなく、それがその場所に建ったらどうなっているのか、という生活の中での風景の画を描くことを心がけていました。

一長い社会人生活を経て本学に着任されて約半年になりますが、学生に対してどのような印象をお持ちでしょうか？

太田 やりたいことが明確にある学生が多いなあという印象ですね。みんなそうとは限らないのですが、やり方がわからないからできないとなっている学生もいれば、やりたいことがわからないというケースもあります。その学生たちが次にアクションできることを教えてあげると自分たちで進んでいくのです。その面でも前向きで良い学生が揃っていると思っています。

一これから本学で学問を修め、社会に羽ばたいていく若者たちに、先生のご経験を踏まえてのアドバイスやメッセージをお願いします。

太田 好きであれば自ずと上達すると思うのです。好きだから勉強する。何か新しいことを始める時は腰が重いと思うのですが、何かを始めないといけないことが社会に出るとたくさんあります。その時は先ず好きになってみる。好きにならないのだったら無理をせずに一度寝かしてみよう。その間に別のことをする。そういう選択肢はたくさんあると思うのです。好きになって前向きに取り組めるような自分に持っていくための方法が大切ですので、それを学生の間で学んでほしいと思います。それが今在籍している建築・デザイン学科であれば、とことん建築をやる、デザインを極める。とにかくとことんやってやっぱりつまらなかつたら、一度休憩して別のことをやる。社会に出てしまうと、仕事ですからお金が発生します。「どうしよう?」という選択肢がありません。やるしかないのです。学生は選べます。好きになって、熱中することが学業においても仕事をするにしても根本にあるのです。学生の間でたくさん色々な事を経験して、本物に触れ、引き出しをできるだけたくさん持てるように過ごしてほしいと思っています。

プロフィール

2006年 大阪駅 北地区 先行開発区域設計室
2008年 大阪産業大学大学院工学研究科環境デザイン専攻 博士前期課程修了
2010年 株式会社大阪日建設計
2014年 株式会社日建設計
2024年 大阪電気通信大学准教授に就任

新任先生からごあいさつ



建築・デザイン学部
建築・デザイン学科
空間デザイン専攻
講師

ほし ちん ひろ はる
寶 珍 宏 元 先生

想いをデータ化して 空間をデザインすること

2024年4月に建築・デザイン学科空間デザイン専攻に講師として着任いたしました寶珍宏元と申します。この度は、皆さまへのご挨拶の機会を頂きまして、心より感謝申し上げます。

私の出身は恐竜で少し有名な福井県です。その後、中学生時代は大阪府に、高校生時代は京都府にいました。大学院の修了後はゼネコンの建築設計部に入社し、建築設計・監理に従事してきました。現場管理の経験もごさいます。そして、2020年に立命館大学の理工学部に着任し、実務プロジェクトに加えて研究・教育活動にも取り組んでまいりました。

〈専門分野について：研究およびプロジェクト内容〉

私の専門は建築の計画・設計のほか、住民参加型のまちづくり手法に関する研究や、空間認知と人間の行動に関する研究に取り組んでおります。まちづくり手法に関する研究では、公園や広場、街路などの公共空間の利用方法を考えるワークショップや社会実験などを実施し、その際にいただいたご意見を対象にグラフ理論を活用して分析したり、分析結果をもとに再整備の計画案を提案したりしてきました。空間認知と人間の行動に関する研究では、スケッチマップや行動調査などを通して、私たちがどのように空間を捉え、どのように行動(活動)するのかを分析してきました。

これらの研究を通して、人々が求める「かたち(建築や物など目に見える形)」だけでは読み取り切れないニーズなどを把握して、空間の計画・設計の分野に活かしてきました。

〈教育について：プロジェクトを通じた実践的な教育〉

学生さんは大学で多様な分野の授業を受け、ご自身の専門を見つけていきます。しかし、その内容が社会の中でどのように貢献しているのかを実践・実感できる機会の用意は、日頃の学内の授業だけでは限界があります。

私はまちづくりや公共空間の計画に関するプロジェクトに関わる機会が多いです。もし私の分野に興味のある学生さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一緒にプ

ロジェクトに取り組みたいと考えています。そして、「空間のデザイン」に関する分野が社会でどのように貢献しているのかを肌で感じていただきたいです。

学内とは異なり、本学の名前を背負って活動することになるプロジェクトでは、楽しいことだけではなく、時には失敗して苦い思いをすることもあると思います。しかし、学内活動だけでは得られない気づきや学びも多くあると思います。学内での授業に加えてプロジェクト活動等も含め、「空間をデザインすること」の魅力が伝えられるような教育をしていきたいと考えています。

〈大切にしていること：何事にも楽しむこと〉

ここで私が日頃、大切にしていることの一つを共有させていただきたいと思います。それは「何事も楽しむこと」です。仕事では、ただ楽しいだけでは済まされないことも多くあります。しかし、自分がやりがいを感じて楽しめなくては、他人の笑顔が溢れるような空間をデザインすることは難しいと考えています。この点は、(私の中では)研究・教育・プロジェクトの全てに共通しています。仕事でも困ったときには、「どうしたら楽しめるか?楽しい仕事になるか?」を考えるようにしています。

学生さんには、ぜひ楽しみながら仲間と切磋琢磨していただきたいです。そうして、ご入学されて4年または6年後に、自分色の翼で社会へ羽ばたいていただきたいです。その一助となれる教員を目指して、本学に貢献していきたいと考えております。

最後になりましたが、この度はご縁があり大阪電気通信大学に就任させて頂き、感謝申し上げます。本学の一員として、本学のご発展とこれから社会へ羽ばたいていく学生さんのご期待に応え、社会に貢献できるよう研究・教育活動に勤めてまいりますので、どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。



公園の利用方法を考えるワークショップの様子
(この後に結果をデータ化して分析)

プロフィール

2016年 福井大学大学院 工学研究科 建築建設工学専攻 博士 前期課程修了
2016年 株式会社鴻池組 建築設計本部 入社
2020年 立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 助手
2024年 大阪電気通信大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 空間デザイン専攻 講師

新任先生インタビュー



医療健康科学部
医療科学科
特任准教授

よしだ
吉田めぐみ先生

在学中にチームワークの大切さと情報をキャッチする能力を磨いて

—先生は臨床工学技士として長年、病院で勤務しておられたそうですね。本学では「基礎生理学」「解剖学」「臨床医学特別演習」などの授業を担当されています。具体的な教育内容について教えていただけますでしょうか？

吉田 本学医療科学科の一期生として卒業後、臨床工学技士の国家資格をとり、滋賀県・京都府内の病院で約20年間、勤務しました。仕事内容は主に院内の医療機器の操作とメンテナンス(管理)、そして医療スタッフへの機器の取り扱い説明でした。

本学では、昨年まで非常勤講師として授業を担当してまして今春、特任准教授として着任しました。

「基礎生理学」や「解剖学」の授業では、人体の臓器の位置や機能の基本的な事柄を学びます。近年の外科手術は、腹腔鏡や血管内からの治療が増え、開胸・開腹することが減りました。このような医療現場においては、ひとつずつの臓器の位置や働きを知ることで、手術や治療の手順がイメージしやすくなり、医療機器の操作がしやすくなります。

—医療技術の進化は日進月歩です。医療機器の機能も年々進化するとともに複雑化し、取り扱いが難しくなイメージがありますが・・・

吉田 確かにそんなイメージを持っている学生は少なくありません。そんな質問を受けた時、私はこう答えています。「車は走る、曲がる、止まるという動作が基本です。時代の変化や車種によって多機能になっていますが、アクセル、ハンドル操作、ブレーキといったそもそもの操作は変わりません。医療機器も同様に、それぞれの病気や手術の治療やサポートといった基本機能・操作は変わりません。より安全性を追求するためにセンサーの導入やネットワークなどの機能の向上、時代の変化でボタンがタッチパネルになりました。しかし、基本操作をきちんと理解していれば大丈夫です」と伝えます。

—先生が臨床工学の分野に進まれたきっかけをお聞かせください。

吉田 中学生のころからロボットに興味がありました。当時から介護用ロボットや電動ベッド、電動車いすはありましたが、とても高額でしたので社会では普及していませんでした。そんな当時の現状を見て、「高齢化で世の中のニーズは高まる一方。もっと身近なものになればいいの」と思っていました。そんな経緯があって、本学の医療科学科に進学しました。

—将来、臨床工学技士を目指している学生は多いです。先生ご自身のお仕事の体験から、この資格を活かして働く中で最も魅力ややりがいを感じておられたのはどんなところでしょうか？

吉田 病院内では手術室やカテーテル室、集中治療室(ICU)、人工透析室にいたることが多かったです。例えば人工透析は患者さんが週に3回ほど治療に通われますので、顔を合わせる機会が多いです。人生の先輩から多くのことを学ばせていただきました。

また、医療現場は多職種による連携がとても大切なチームプレーです。互いに情報を共有することが求められます。臨床工学技士は医療機器の情報にアンテナを張り、また自ら進んで情報をキャッチする姿勢が大事です。そうして得た知識を医師や看護師に伝える。このような連携プレーがうまく機能することが患者さんの救命につながり、回復に功を奏すると思っています。

医療機器は、医療現場に欠かせないものになっています。院内にいる臨床工学技士が準備・操作・メンテナンスができることで治療に貢献できやりがいにもつながります。

—本学で学生時代を過ごし、未来を担っていく若者にメッセージをお願いいたします。

吉田 医療と工学の両方の分野を学び、視野が広がっていくのは、医療科学科の魅力のひとつです。医療現場だけでなく社会ではチームプレーが重要です。本学生にお伝えしたいのは、知識も重要ですが友人などとチームを作って楽しみ学んでほしいです。

学生の皆さんには大学での勉強と遊び、アルバイトとのバランスを考えながら、何か熱中できるものを見つけ、充実した大学生活を送っていただきたいと願っています。



プロフィール

大阪電気通信大学 医療福祉学部 医療福祉工学科卒業
大阪ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士専攻科卒業
2006年～2012年 彦根市立病院 就職
2012年～2020年 滋賀医科大学付属病院 就職
2020年～2023年 池田クリニック 就職
2024年～ 大阪電気通信大学 医療健康科学部 医療科学科 特任准教授 就任

新任先生からごあいさつ



医療健康科学部
理学療法学科
特任講師

まつもと こうへい
松本光平先生

学生とともに成長し、教育・社会への貢献を目指して

〈ご挨拶〉

2024年4月に理学療法学科に任期付特別任用教員として着任しました松本光平と申します。「後援会たより」にて、皆様にご挨拶の機会を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。私は本学の理学療法学科の6期生であり、部活動では硬式野球部に所属していました。学生時代に仲間と学業や部活動に励んだキャンパスに、教員として勤めることとなり、大変嬉しく思っております。

私は卒業後、9年間病院で勤務し、主に整形外科疾患とスポーツ障害(野球)のリハビリテーションに携わっていました。また、地域高齢者の健康維持を目的とした講習会や高校の部活動のサポートなどに参加し、幅広い世代の健康支援に取り組んできました。まだまだ未熟者ではありますが、これまで培った知識・技術・経験を教育に活かし、本学の発展に貢献できるよう尽力いたします。

〈教育への抱負〉

私は、考える力は人生を豊かにすると感じています。知識・技術の修得を支援すると同時に、授業では対話や演習を多く取り入れ、学生が考える機会を積極的に取り入れたいと思っています。そして、学習することの楽しさに気づきを与えていきたいです。

私が主に担当している科目は、理学療法士国家試験に合格するために必要な総合的知識と臨床で活用できる技術を修得するための科目です。実際に病院で勤務してわかったことではありますが、理学療法士という職業は、とても「やりがい」や「楽しさ」がある仕事です。私が学生の時にこのことに気づけていれば、より一層充実した学生生活を送れたのではないかと感じています。そのため、学外施設と連携を密に取って、実際の臨床現場の画像や動画を学生に提示し、「今勉強している知識や技術はこのような場面で活かされる」ということが具体的にイメージできるように努めています。授業後に学生が「授業と実践の繋がりが理解できた」と思える授業を展開し、将来理学療法士として働く自分に希望を抱きながら

大学生を送ってほしいと思っています。

〈研究の内容〉

私は野球選手の障害に対するリハビリテーションと障害発生の予防を目的としたサポーターの開発に関する研究を行っています。野球選手の投球側の肩や肘関節の障害発生率は高いことが知られています。また、実際に野球部に所属していた経験や病院でリハビリテーションに従事していた中で、痛みによって野球ができない選手を多く目の当たりにしてきました。この経験から、私は野球選手の安全な競技復帰や障害発生の予防を追究していきたいと考え、研究に取り組んでいます。1件でも多くの障害発生を予防し、社会に貢献していきたいです。

研究活動を通じて、得られた知見は蓄積して、それらを学生に還元し、教育にもつなげていきたいです。学生の成長とともに私自身も成長し、学科・学部・大学の発展に貢献したいと考えています。



プロフィール

2015年 大阪電気通信大学 医療福祉学部 理学療法学科 卒業
2015年～2024年 東豊中渡辺病院・関西メディカル病院 理学療法士として勤務
2024年 大阪電気通信大学 医療健康科学部 理学療法学科 任期付特別任用教員

【資格】

2015年 理学療法士免許 取得
2022年 日本理学療法士協会 認定理学療法士(運動器) 取得

新任先生からごあいさつ

総合情報学部
デジタルゲーム学科
教授まき いし
榎石 隆先生エンターテインメント「+α」による
新しい可能性の探究

〈自己紹介〉

2024年4月に総合情報学部 デジタルゲーム学科に着任した榎石 隆と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は大阪電気通信大学の出身で、学部は精密工学科、修士課程では情報工学科に在籍しておりました。現在、デジタルゲーム学科がある四條畷キャンパスは、当時は今ほど拡張されておらず、一回生の時のみ通学しておりましたが、現在では大きく拡張されとても立派なキャンパスになっておりました。一回生の時から約30年の時を経て母校が大きく成長していることに喜びを感じつつ、継承していく責任を強く感じました。

私は教員としては少し変わった経緯を持っており、卒業後から本学に着任するまでの期間は全てゲーム会社に所属し、ゲーム開発の前線で従事しておりました。早い時期からネットワーク技術を利用したオンラインゲームタイトルの開発に携わり、ゲームセンターに配置されるアーケードゲーム機、プレイステーションなどのコンシューマ機、スマートフォンにインストールするモバイルゲームアプリなど、幅広いプラットフォームでその時代にあった技術を使いオンラインゲームを制作して参りました。また、従事している会社の枠を超えて、関西最大級のゲーム業界向け勉強会の実行委員を行うなど、ゲーム業界の発展のため柔軟かつ積極的な課外活動も行って参りました。

今後はこれからゲーム業界を目指す若者を育てることで、本学及びゲーム業界の発展に寄与したいと考えております。また、個人としては今まで私を育ててくれたゲームを含むエンターテインメント業界の更なる発展のため、様々な研究を行っていきたくと考えております。いずれの研究もゼロから築き上げていくものになりますが、着実に形にしていき、世の中に新しい可能性を示していけるよう尽力いたします。

〈研究内容〉

ゲーム+医療=デジタル治療薬

私の研究についてご紹介させていただきます。

現在、医薬品業界の持つ課題として、「治療方法の拡大」や「治療の継続性」などが挙げられます。この課題に対する解答の一つとして、アメリカではFDA（食品医薬品局）に認可された「薬」としてのゲームがあります。これが普及していくと、患者はゲームをすることで症状が改善することができ、「楽しく」治療ができるようになる可能性が増大します。

ここにゲーム開発で培った技術をプラスしていこうと考えております。例えば、運用型ゲームタイトルの知見をプラスすることで、「楽しく続けたい治療」を生み出していきたいと考えています。また、ゲームを用い、「楽しく」認知予備能を鍛えることで認知症発症予防を行うなど、対象とする範囲を広く持ち研究を行います。今までよりもより幅広い年代の方にゲームの楽しさとゲームの可能性を体験して頂きたいと思ひます。

e-sports + 科学 = e-sports 科学

「スポーツ科学」はスポーツを考察の対象とした学問の総称ですが、それに対を為す e-sports 領域を開拓していきたいと考えています。科学を通じて、ゲームを正しく分析・理解し、感覚・経験だけに頼らないものにしなさいと考えています。例えば、スポーツにおいて間違った方法での運動や過度のトレーニングなどを行うと体を壊してしまいます。適切な手法や量などを守ることが非常に重要です。ゲームでも同様に手法や量などを科学的な視点から分析し、ゲームを上達させる効果的なトレーニングや健康に害をなさない量のコントロールが行えるようにし、ゲームにおいて語られる悪影響を減らし、ゲームの良さを引き延ばしていきたいと考えております。また、「スポーツ医学」は競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すための身体の使い方、治療などを取り扱う学問です。e-sportsでも同様に理論に基づき正しく強く・健康になれる世界を作りたいと考えています。



プロフィール

1998年 大阪電気通信大学 精密工学科 卒業
2000年 大阪電気通信大学大学院 総合情報学専攻 修士課程 修了
株式会社コナミデジタルエンタテインメントをはじめ、株式会社カプコン等でのゲーム開発経験を経て2024年に大阪電気通信大学 総合情報学部 デジタルゲーム学科 教授

新任先生からごあいさつ

総合情報学部
デジタルゲーム学科
教授わだ しん いち
和田 真一先生

デジタルアートの未来を見据えて

2024年4月より、大阪電気通信大学デジタルゲーム学科に着任いたしました和田真一と申します。「後援会たより」にて皆様にご挨拶できる機会をいただき、心より感謝申し上げます。

私の勤務地は四條畷キャンパスですが、そのすぐ隣の山を越えた奈良県が私の出身地です。長らく京都に住んでおりましたが、本学への着任を機に故郷の奈良へと戻ることになりました。

私はアート系の実務家教員として、これまで27年間、専門学校や大学で教鞭をとってまいりました。学生時代に自らのデザイン事務所を立ち上げ、創作活動を続けながら教壇に立ち続けてきました。実務で得た経験を教学に反映することで、多くの学生を育て、社会に送りだしてきました。

私の研究テーマは、デジタルスカルプティングによる3DCG造形、リアルデジタルヒューマン制作手法、デフォルメ3DCGキャラクター制作手法と表現、そして3Dプリント・立体造形物制作方法の発見と最適化です。これらの研究を通じて、日本国内のエンターテインメント業界、特にCGやゲーム産業における造形力とデジタルモデリング力の向上を目指しています。

研究の中で使用しているソフトウェアの一つに「ZBrush」があります。デジタルスカルプティングの分野でデファクトスタンダードとなっているこのソフトウェアは、デジタル彫刻という、デジタルのアプローチで造形物を彫刻手法を用いて3DCGモデルとして制作することができます。私は2010年に東アジアで初のZBrush認定インストラクターとなり、それ以来、ゲーム業界をはじめ多くのコンテンツ業界でZBrushの指導を行って参りました。

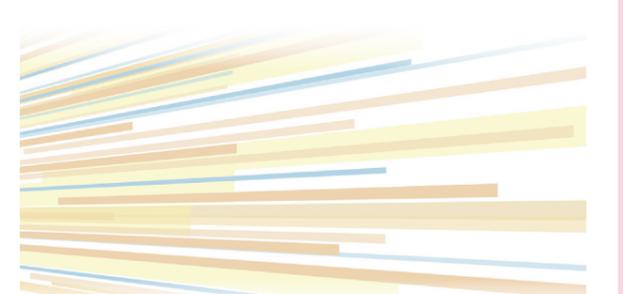
キャラクター制作はゲーム業界だけでなく、様々な業界で人気があります。3DCGを学ぶ学生の多くがキャラクター制作を希望し、人気の職種となっています。しかし、キャラクター制作は簡単ではありません。特に人型のキャラクターを制作する場合には美術解剖学の知識が必要となります。美術解剖学とは、人体を描く上で重要な骨格や筋肉などの内部構造について学ぶ学問です。私は美術解剖学も専門

としており、この知識を活かしてキャラクター制作を指導しています。美術解剖学を学んで制作されたキャラクターとそうでないキャラクターでは、明らかに造形に差が生まれます。学生には基礎からしっかりと学び、魅力的なキャラクターを制作できるようになってほしいと考えています。

私は世界に通用する3DCG技術を持った人材を育てたいと考えています。「ZBrush」の公認インストラクターとなったのも、この理由からです。デジタルスカルプティングに限らず、これまでの経験を活かし、様々な3D技術を教授し、一つのアプリケーションに依存しない3Dクリエイターを育成したいと思ひます。

また、最近のデジタルファブリケーション技術の発展により、3Dデータを制作できる者はデジタルデータを現実の造形物に変えることも可能になりました。メディアでは「3Dプリント」が簡単にできると言われていますが、実際には高度な設計と知識と経験が必要です。私は3Dプリント技術も研究しており、黎明期から商業フィギュア原型制作に関わってきました。これまでの研究と経験を活かし、コンピューターグラフィックスデータ制作にとどまらない3Dデータを活用した作品を制作できる学生を育成したいと考えています。それはゲームコンテンツであるかもしれませんが、3D出力物やフィギュアであるかもしれません。データ制作に留まらず、多岐にわたって活躍できる人材を育てたいと考えています。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。



プロフィール

1996年 Design Office blest設立 現在BLESTAR
1997年 職業訓練法人 大阪ヒューマンアカデミーグラフィックデザイン科 卒業
1997年 職業訓練法人 大阪ヒューマンアカデミー 非常勤講師
2010年 東アジア初のZBrush認定インストラクター
2014年 大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 アニメーションキャラクターデザインコース 非常勤教員
2015年 大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 アニメーションキャラクターデザインコース 特任准教授
2021年 大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 アニメーションキャラクターデザインコース 特別招聘准教授
2023年 京都精華大学 マンガ学部 マンガ学科 キャラクターデザインコース 准教授
2024年 大阪電気通信大学 総合情報学部 デジタルゲーム学科 教授

第64回 大学祭

参加者：約 280 名
アンケート結果 回答：46 枚

2024.9.21 - 9.22

▼パンフレット



9月21日(土)・9月22日(日)の両日、寝屋川キャンパスで大学祭が開催され、後援会は1日目に出版させていただきました。

例年11月の開催が前倒しされ、まだ夏の様な日ざしの残る日でしたが朝から近隣の方々や学生達で賑わいました。

J号館ラウンジにて、まとあて、わなげ、すくいもの、プラコースターづくり、喫茶コーナーを出店し、たくさんの方に楽しんでいただきました。

ご来場いただいた方々と和やかで楽しい時間を共有でき、役員一同元気をいただけた学園祭となりました。

ありがとうございました。

当日いただいたアンケートのまとめを掲載させていただきます。



賑わう後援会コーナー



塩田学長と後援会役員のみなさん

●子供達に寄り添った声かけ、対応が好感を持ってました。外は暑いので涼しい所で遊べて休憩させてもらえてありがたかったです。全て無料なのがすごい!!子育て中のお祭り参加は出費がすごいです(泣) ●楽しかった。とても楽しめました!ありがとうございました。●最高でした~!! ●とても楽しかったです!! ●子供がとっても喜んでました。ありがとうございました。●親切に対応してもらえてありがたかった。●昨年に引き続き、参加させていただきました。楽しかったです。

1. どちらのコーナーをご利用いただきましたか

ア 工作・ゲームコーナー	2
イ 喫茶	5
ウ どちらとも	36

2. 後援会のコーナーを何で知りましたか

ア Web	2
イ パンフレット	11
ウ 通りすがり	29
エ その他	2

●低学年の子供はゲームを楽しんでいましたが高学年の子供は興味がなかったのでテンションが下がっていたところお茶ができるを知って、どちらも喜んで過ごせました。ありがとうございました!!おいしかったです。●とても楽しく過ごすことができました。●スーパーボールすくいで金色のうんちをゲットしてよかった。●とても良かったです! ●子供が楽しんでいたため、また参加したいです。●子供も楽しく参加でき、お菓子までもらえとても満足です。●子供達がとても楽しそうにいました。喫茶コーナーで休憩できて良かったです。



●ありがとうございました。●工作がおもしろくて楽しかった。●電通大がベランダから見えるところに20年近く住んでいるのに今回初めて来ました。孫を連れて来ようと思いました。保護者の方々のパワーを感じます(1番にぎわってます) ●2才の赤ちゃんも楽しませていただき、おいしいコーヒーもありがたくいただきました。ありがとうございました!! ●コーヒーとお菓子がとてもおいしくやされました。●ありがとうございました。子供が休めて助かりました! ●コーヒーがおいしかった。



プラコースター作り

3. 後援会コーナーについてどうでしたか

ア 楽しかった	44
イ 普通	0
ウ つまらない	0
エ その他	0

4. 年代についてお聞かせ下さい※複数回答あり

ア 未就園児	25
イ 小学校低学年	23
ウ 小学校高学年	10
エ 中学生以上	12

●外が暑かったので助かりました。●ありがとうございました! ●e-スポーツ子供が喜んでいました。●ポストにチラシが入っていて知る事ができました。●コースター作りが楽しかったです!! ●無料でジュースやおかしまで頂けて子供が大喜びしていました。ありがとうございました。●工作が楽しかったです。●お菓子もありがとうございました。楽しかったです! ●とても丁寧に接客して頂きました♡♡♡

キャンパス探訪とは

後援会の掲げた事業計画に基づき、後援会役員が保護者目線で大学内の様子を見学、取材記事を起こし紹介しています。秋の気配を感じつつまだ日射しの強い中、寝屋川キャンパス 10 時に集合し、3D 造形先端加工センター、自由工房ソーラーカー見学後、寝屋川キャンパス、四條畷キャンパスにわかれ、それぞれ探訪しました。

施設見学

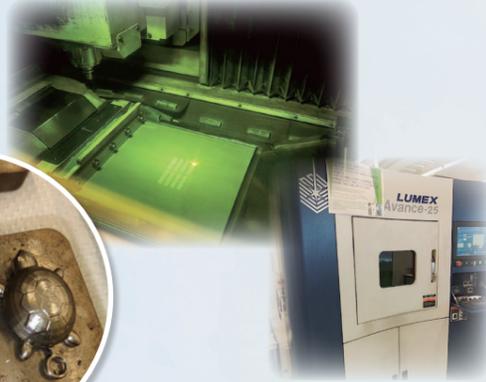
3D造形先端加工センター

▶ X 軸、Y 軸、Z 軸（左右前後上下 3 軸）での切削加工だけでなく、加工品を傾けたりすることで複雑な加工ができる 5 軸制御マシニングセンター MX 5 2 0 について通常の

3 軸加工だけでは加工の難しい内側が膨らんだ構造のサンプルの急須をつかって加工デモを行い複雑な構造の加工が可能な事を聞きました。



▼左がレーザー加工のみ。右がレーザーと切削の同時加工の亀の造形サンプル



▶ 薄く敷き詰めた金属粉末にレーザーを照射して焼結しさらに金属粉末を積み重ねて造形加工する言わば金属の 3D プリンター機能と、レーザー光の焼結による加工では金属表面にざら

つきが発生するところですが、切削加工を同時に行い精密なことができる、金属光造形複合加工機 Lumex Advance-25 の説明を聞きました。

▶ 大阪電気通信大学が学生の「モノづくり」をバックアップしている課外活動団体の自由工房について、活動の一つである人

型ロボットプロジェクトで作成した格闘ロボットのデモ操縦を行っている様子。



◀ 災害時の救助活動をテーマとしたレスキューロボットコンテストに参加する自由工房レスキューロボットコンテストプロジェクトで、写真右側の 4 輪ロボットで階段の障害を乗り越えるデモをしている様子。

…参加者の感想…

ひと昔前では、「職人技」といわれた技術がマシンによっていとも簡単に、精密に制作される様子を拝見し感嘆しました。

しかし、そのマシンを動かすのは「人」であることに変わりはなく、大学で学ぶ技術や知識がとても重要な事だと感じると共に、電通大で学ぶことのできる内容を素晴らしいと思いました。

ソーラーカー見学

8 月に秋田県で行なわれたソーラーカーレースで、走行したソーラーカーを見学し、参加された学生さんたちが説明してくれました。

思ったより運転席は小さく、中にはたくさんの配線がありました。今後の活躍も楽しみです。



2 限

基礎解析学 2・演習

▼ 学年：電子機械工学科 1 年
▼ 教室：J-407
▼ 教員：香川 智修 先生

〈授業内容〉

- 微分についての講義と演習
- 生徒は 30 名ほど
- 1、2 限連続の講義で、我々は 2 限目に参加
- 4 枚の大きな黒板をフルに使用し、23 枚分使って説明されていた。(先生も今回は、特に説明することが多いと言われていました。)
- 微分とは何ぞや（極限の考え方を使い、関数の曲線における接線の傾きを求める計算方法）
- もう少し具体的に言うと、微分とは、

$$\text{導関数 } f'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h} \text{ を求めること。}$$

- この導関数を求めるために各種公式、講義では $(x)^n = nx^{n-1}$ など 8 つの公式と 4 つの定理を提示されていた。
- 講義の後半の 55 分間は、演習問題を生徒に与えつつ、そのうちの 7 問を丁寧に解説されていた。残りの 10 問ほどは来週までの宿題とされた。

寝屋川キャンパス

(参加者) 前田、市田、愛地、河淵、坂口、藤丸、脇阪

…参加者の感想…

約 40 年前に理解することを諦めた微分。今回参加させてもらって、最初は数式がいっぱい出てきて、やっぱり、わけがわからんわと思ったが、先生の非常に丁寧な説明や、生徒目線の言葉「丸写してても何やってるかわからないよ。まずは自分で手を動かしてみる。演習を何度もやってみる。

暗記するのではなく、考えながら 5 回くらい繰り返したら解けるようになる。」を聞いていたら授業の後半には、私も問題が少し解けるようになり、感動しました。

また、演習問題中や授業が終わってからも積極的に先生に質問をしている学生もおられ、学生に対しては頼もしく、更に、ざっくばらんに先生と学生が会話している姿を見て、非常にコミュニケーションが良く、最適な学びの場だと感じました。



発達心理学

- ▼ 学年：情報工学科・通信工学科
建築・デザイン学科 建築専攻 1年
- ▼ 教室：J-406
- ▼ 教員：平沼 博将 先生



〈授業内容〉

・発達するとは
「教育、しつけ（刺激）→子ども→発達？（反応）」と考えてしまうとより多くの反応を期待してしまう。より多くの刺激を与えればよいのではない。（言われた事だけしかできない受け身になる）

★子どもたちは主体的に環境に働きかけることによって発達していく。

〈胎生期の発達の特徴〉

- ・卵体期（受精～着床まで）数多くの精子と卵子の中で1組のみが受精卵になれる。受精卵になっても全て着床できるわけではない。
- ・胎芽期
人間のもととなる心臓や手ができる。
重力が関係していると考えられている。
- ・胎児期（8週～出生まで）母と子は血液を混えずに酸素と栄養を分け与える。
11週ぐらいに男女の区別ができる（外見的にはわからない）
20週 胎動、睡眠と覚醒のリズムができる（母と子は別）
30週 外の音に反応



…参加者の感想…

ビデオや資料を使ってわかりやすい授業でした。

胎生期のお話でしたが、知らない事も多く、人が生まれてこれたのは本当に奇跡なんだと改めて感動しました。生まれてきてくれた事に感謝して、息子に優しくなれそうです。

モバイル通信

- ▼ 学年：通信工学科 3年
- ▼ 教室：J-515
- ▼ 教員：前川 泰之 先生



〈授業内容〉

2.1.1 電波伝搬の基礎 (等価) 等方向放射電力 電力束密度

- 1.3 陸上移動通信における無線技術
- 1.3.1 無線技術の課題
 - ・マルチパスフェージング対策
建物からの多重波による干渉
 - ・VHF → UHF → マイクロ波・ミリ波
- 1.3.2 技術課題への取り組み
 - ・フェージング対策
MIMO OFDM



第2章 陸上移動通信の電波伝搬

2.1 電波伝搬の概要

様々な方向から到来する多重波
⇒マルチパス（直接波、反射波、回折波、散乱波、透過波）

…参加者の感想…

パワーポイント（学生達のパソコンと共有）と共に、例えば話や黒板を使いより詳しい説明をされていました。

学生の中には自分のパソコンと黒板を見ながら一生懸命板書している人もいました。

残り25分になった所で課題が出てそれを提出した学生から退出して行き授業は終了しましたが、

それまでの約80分間は内容が濃く、専門用語や専門的な記号、数式が次々と出て来てスピード感がありました。

3限

電気機器

- ▼ 学年：電気電子工学科 2年
- ▼ 教室：J-306
- ▼ 教員：民田 太郎 先生

〈授業内容〉

前回の変圧器(2)の復習・追加説明と「直流機(1)、構成と基本原理」

授業では、各モーターの原理の説明を講義されていくなか本日は、直流モーターの基本原理の講義が行われました。

講義の資料を拝見するよう、QRコードの補足もあり、直流

モーターの仕組みのYouTubeの案内もあり、理解しやすかったです。

解説後は、課題を配られ各学生が課題を解いていました。

TA（ティーチングアシスタント）の方もおり、課題中は質問のしやすい環境を作られておりました。



…参加者の感想…

今回の受けました授業では、電気機器の基本習得の授業でした。

先生が丁寧に一生懸命に講義されていたのが印象的でした。

3年・4年と進級に伴い必要となってくる基礎なので頑張っておきたいところです。

課題では、質問している学生、友人同士の助け合いも見受けられ真面目に課題に取り組んでいました。

授業が、105分授業に変わったこともあり、授業に集中できているのかと思いましたが、思ったより集中し授業を受けており安心しました。

流体力学 / 流体力学 1

- ▼ 学年：電子機械工学科 4年
機械工学科 2年
- ▼ 教室：J-312
- ▼ 教員：山本 剛宏 先生

〈授業内容〉

- ・圧力の性質
 - (1) 圧力はどの向きでも同じ大きさ
 - (2) 高さが等しければ圧力も等しい
 - (3) 高さがHだけ異なる2点の圧力差 ρgH
- ・マンメータの原理

…参加者の感想…

授業内容から1時間程で5分のリフレッシュタイム。集中力が必要な授業でほっとする時間でした。

学生さんも隣りの人と話したり、教室の外へ出られる方など、それぞれに過ごしていました。

リフレッシュタイムの後は例題を用いた説明が始まり、みなさんまた授業に集中されていました。



5分間のリフレッシュタイム





公衆衛生学

- ▼ 学年：環境科学科 3年
- ▼ 教室：J-514
- ▼ 教員：齊藤 安貴子先生



…参加者の感想…

社会保障制度と医療経済の授業でした。高齢化で1人あたりの医療費がどんどん高くなる事。医師は健康を守る義務があり、信用できる医師に診てもらふ事。死亡診断書は人間の死亡を医学的・法律的に証明するものである事。国際保健は経済格差や自然条件など様々な課題があり、WHOなどが対策を行なっている事などを、わかりやすく教えていただきました。70名程の学生も、みんな熱心にノートを取っていました。心も身体も社会的にも健全でいられるように、考え取り組み続けていく必要があると感じました。



J号館1階食堂 エル・スエヒロ

- ・B定食(鰯のマスタード焼定食)を頂きました。
- ・安くおいしく頂きました。
- ・食堂内は多くの学生で賑わっていました。



A定食
(特撰メンチカツ)

・メンチカツは大きくサクサクで上にかかっていたソースは塩味が丁度良く美味しかったです。ご飯は少し減らしてもらいましたが、お腹一杯になりました。



B定食
(鰯のマスタード焼定食)

・お味噌汁がセルフのワンタッチで出て来る機械が設置されている事に驚きました。



唐揚げ定食

・お昼時には、食券を買う列が長くなっており、2台ありましたがもう1台ぐらいあれば、購入待ちの解消ができるのかなぁと思いました。



日替丼と
小松菜とちくわのおひたし

プログラミング基礎実習2

- ▼ 学年：医療科学科 1年
- ▼ 教室：6-105
- ▼ 教員：島袋 舞子先生

〈授業内容〉

- ・前回の復習(確認問題)
- ・キーボードからの入力
- ・課題 問題6問
- ・授業アンケート



変数の入力
プログラムで名前、数字の入力
Inputの使い方



…参加者の感想…

各自、自分のパソコンを持っているのでそれぞれ教室の授業用のパソコンを見ながら授業を受け、課題を解いていく。

プログラミングは普段関わる事のない分野で内容は専門的で難しくわからない事ばかりでしたが、一つ一つ丁寧に解説してくれていました。

課題を解いて待ち時間の間、解き方を教え合う姿があり、授業の内容を見学させてもらう事で授業の雰囲気がよくわかり参加して良かったです。

学生に戻った気分で久しぶりに頭フル回転で聞いていました。

先生やヘルプの学生さんが時々見回り、パソコンでもヘルプボタンがあり、困った時に質問できる環境は良いと思いました。

栄養学

- ▼ 学年：健康スポーツ科学科 2年
- ▼ 教室：2-202
- ▼ 教員：武田 ひとみ先生



…参加者の感想…

今日は武田ひとみ先生の栄養学を教えてくださいました。栄養学第3回目です。前週の課題のところからで学生1名の提出物がありました。

どういう課題なのかとても学生さんとその家族に関係があり学生生活に深くかかわりのある“食”と“食生活”についてです。

皆さんのコメント=学生さん達のアンケートから、自分たちの食生活を振りかえってルールとアドバイスです。「食生活指針と呼びます」

- ・体重管理、食事が楽しい、と良い傾向にあります。
- ・親にメニューを伝えて料理を作ってもらえてる。料理を教えてもらってる場合は学生達、子供達が自分で自力でやる準備に入っている事。

そして、
・家族がバランスを考えて作ってくれる場合は家族のささ

えがあるというのがわかる。
逆に以下のように、夜食と“欠食”の、悪い点は教科書のグラフは見て把握すると欠食率、男女比較、年代別で“朝食欠食”は男性が多く20代の男性が最も多いと大阪電気通信大学の男子の多い大学生の親が心配になるところをこの面接授業見学で親にも学生の体調管理の注意とアドバイスにもなってとても良い面接授業でした。スポーツの授業も時々受講しているので課題の朝食のメリットとデメリットの食べてない人は男女ともに成績が悪かったとならないように朝食のメリットで頭も体も良く良く動く(“体温上昇”より)そして睡眠の質も改善できるように、親として子供に「しっかり身体を休めて、しっかり動ける体になる」ように、サポートをしていきたいと思いました。とても役立つ授業と課題は助かります!!ありがとうございました。

食べよう、朝食!

後援会が協力!!

「三文の徳食堂」後期も開店!

背景

- ・徹夜での課題作成や夜間アルバイトなどで、不規則な生活に陥りがち
- ・下宿学生など、親元を離れ規則正しい生活習慣が難しい
- ・朝食時間を削ってでも寝ていたい
- ・1限目の講義はついサボりがち



○内容は、主菜ワンプレート・ライス・汁物を日替わりメニュー

前期から学食で実施された「三文の徳食堂」をご存知ですか。

この三文の徳食堂は、実際には1食300円の費用のうち学生からワンコイン(100円)の負担をしてもらい残り200円は後援会と大学が協力し実施しております。

「三文の徳食堂」は2014年4月前期授業開始から始まり2019年後期授業終了まで実施しておりましたが、その後2020年新型コロナ感染拡大防止により一時中断しておりましたが、2023年4月前期授業より再開し、現在に至っております。

利用者の声は、おおむね良好で、つつい抜かしがちな朝食がしっかりとれ、ほぼ毎日利用、味は最高、量は丁度よく安くて助かりますなど様々でした。後援会では、学生の食育にも役立つ三文の徳食堂を後期も実施します。

後援会は、今後も学生の助けになる活動を進めてまいりますので保護者の皆様のご協力をお願いします。



通信工学科2年 松尾さん 通信工学科2年 中森さん



後期 開店期間・時間

9/30(月)～12/23(月)

2025年 1/6(月)～1/10(金)
授業日のみ営業(祝日の授業日も営業)

寝屋川キャンパス

J号館1階食堂
AM 8:30～10:00

四條畷キャンパス

6号館1階食堂
AM 9:00～10:00



後援会より寄贈

寝屋川キャンパス

トレーニングルームへ トレッドミル2台

寝屋川キャンパスQ号館1階にはトレーニングルームがあります。利用時間内で学生はすべて無料で利用することができるそうです。故障中のマシンがあった為、5月に2台のトレッドミルを寄贈いたしました。学生の健康増進のお役に立てができればと思います。



四條畷キャンパス

1号館入口へウォータークーラー



四條畷キャンパスのウォータークーラーが故障しており、7月初め1台寄贈いたしました。バス乗り場の近くで、利用する学生が多い場所に設置でき夏本番に間に合ったとお喜びのお声をいただきました。



後援会では、今後も大学と連携し学生に役立つ支援を行ってまいりますのでご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

後援会も自由工房に協力 大潟村にてソーラーカーレースに参加 『World Green Challenge 2024』

私たち、大阪電気通信大学 自由工房 EV 班 Solar Team Ku-Onは、国連が定めたSDGs「持続可能な開発目標」の一つである「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」を実現するため、再生可能エネルギーを活用したソーラーカーの開発に取り組んでいます。私たちの最終目標はオーストラリアで開催されるソーラーカーレースであるプリジストンワールドソーラーチャレンジ(BWSC)に出場することです。

今回私たちは毎年秋ごろ秋田県大潟村で開催される「World Green Challenge」に参加しました。World Green Challengeは、クリーンエネルギーの開発と普及を推進し、若者に夢を与え、エンジニアに実験の場を提供するとともに、ソーラーエネルギーの有効性を広く発信し、環境問題への関心を高めるための大会となっています。今回私たちが出場したクラスはチャレンジャーとなっており、このクラスはチャレンジャー、クルーザー、エンジョイ、アドベンチャーの4つのクラスの中

でも特にレベルの高い社会人チームや大学生チームが参加しています。昨年までは和歌山県白浜町で行われる「白浜ECO CAR チャレンジ」に参加していましたが、今年は初の秋田での大会への参加の上、白浜ECO CARチャレンジよりも、1周の距離が10倍近く長いので、コース上でのトラブルは起こらないよう、定期的に車体の状況を確認しながら走行を行いました。

8月9日は車体搬入と車検を行いました。大会現地はピットロードに沿ってチーム毎の車体整備を行う仮設テントが設営されており、ソーラーカーや整備道具などの搬入を行いました。その後大会参加に際して合格が必須である車検を行い、1日目は終了しました。

10日は開会式が行われ、ついにレースが始まりました。レースは、10日9時から16時、11日8時から16時、12日8時から15時の3回に分けられる予定でしたが、台風の影響により12日は開催されませんでした。レース形式は総合周回数を競う形になります。10日は朝か



ら晴れており、ソーラーカーレースに適したレース環境となりました。前日から固めていた走行の指示をドライバーに出し、少々のトラブルはありつつもピットで長時間停車することもなく、順調に周回数を重ねていましたが、レース終盤に想定していた時間よりも早く充電切れが起きてしまいました。路肩に停車してバッテリーの充電を待ち、周回時間が長くなりつつもチェッカーフラッグが掲示されている時間内に帰還し、レース初日は終了しました。

11日は、台風の影響で11時には撤収することになってしまったので、電池切れを起こすギリギリまで走行する作戦でした。しかし、2日目から帰ってくる際に、事故を起こしてしまうトラブルが発生しました。怪我人はなく、車体は一部壊れてしまったものの、自走して帰ってくることが出来たため、予定よりは少し早くなりましたが、そこで走行終了とし、搬出の準備

を始めました。

総合結果では総周回数は9周、走行距離は225kmとなり、総合順位17チーム中12位、クラス順位は7チーム中7位となりました。大会運営様より参加賞としてあきたこまち2kgとパンプキンパイ4箱を贈呈して頂きました。

今回得た経験と反省を活かして、車体を改良し、国内のレースでさらなる経験を積み、プリジストンワールドソーラーチャレンジ(BWSC)に向けて前進していきます。最後になりましたが、後援会の皆様に頂きましたご支援、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。今後とも応援の程、よろしくお願いいたします。



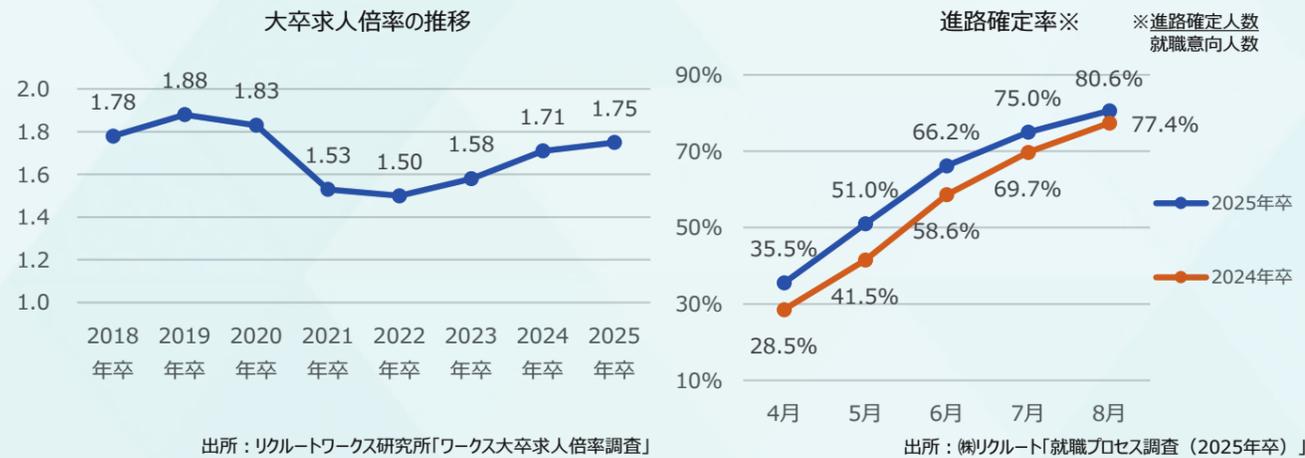
2024年度就職活動について

就職部長 土田 修

平素より就職支援にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本稿では、2024年9月時点の2025年卒就職動向と今後の就職活動についてお伝えいたします。

1. 2024年度就職動向

2025年卒の大卒求人倍率は1.75と前年から0.04ポイント上昇し、企業の採用意欲はコロナ禍前の水準まで回復しました。8月までの進路確定率も前年を大きく上回るペースで進捗しています。



2. 2025年卒の採用・就職活動

2024年7月実施の新卒採用に関する中間調査（㈱キャリアス）によれば、2025年卒採用について一般的に次のような傾向が見受けられます。

◇企業動向

学生の応募状況

- ・エントリー数、選考への応募者数ともに前年より減少

採用活動の開始時期

- ・採用広報解禁（3月）以前の面接開始が増加し、従業員規模が大きいほど動き出しが早い
- ・多くの企業が内定出しの時期を前倒し

選考を受けた学生に対する印象

- ・就業意識や企業理解などが高い学生と低い学生との差が大きい
- ・待遇や働き方にこだわる学生が増加

内定者の充足状況

- ・内定者を十分確保できておらず、採用活動を継続する企業の割合が増加

◇学生動向

学生の内定率

- ・過去20年来で最高水準の高い状況



就職活動量

- ・本選考に応募する段階で企業を絞り込む学生が多い

就職活動を終了したいと思う時期

- ・7月～8月までに就活を終えたい学生が7割を占める

内定先企業を知ったきっかけ

- ・「就職情報サイト」、「就職活動前から知っていた企業」、「会社説明会への参加」の順

自身の内定先企業で働きたいと思った時期

- ・「インターンシップ等のプログラムに参加した時」、「面接等の選考を重ねていく中で徐々に」、「会社説明会に参加した時」の順

学生にとって売り手市場となっており、就職活動の早期化が前年より進み、3年生の夏や秋冬に開催した就業体験プログラムや会社説明会・セミナー等への参加者に対して、早期選考を実施する企業が増加し、年内に内定を出す企業も散見されます。

大手企業以外の多くの企業では内定者の確保に苦労されており、10月の内定式実施後も採用活動を継続される企業が増えてきています。一方、学生の側では早期に内定を取得し就職活動を終了した学生と準備不足等の理由により就職活動が長期化している学生に二極化する傾向にあります。

3. 本学の動向

前述の通り、数字面では学生優位の売り手市場となっていますが、学生にとって就職活動が楽になったという実感は乏しいと思われます。

本学2025年卒学生の進路決定状況を見ても前年とほぼ同程度で推移しており、早期に就職先を決定した学生が増加している訳ではありません。

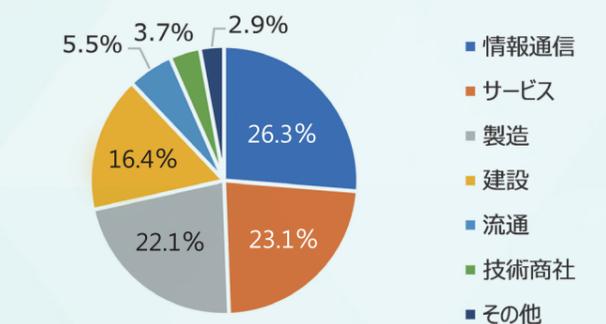
内定を得て早い段階で就職活動が終われば学業に支障はありませんが、採用活動の早期化が就職活動の長期化につながり、学生の負担になっている面もあるように思われます。就職活動が長期化する要因としては早期に内定を取得しても就職先を決定するまで時間の猶予があるため、「もっといい企業があるのではないか」と就職活動を継続する学生が増えていることが考えられます。

2025年卒学生の内定取得先の業種内訳（右グラフ）によれば、「情報通信」、「サービス」、「製造」、「建設」の順となっており、情報通信業は他業界より早く内定を出されています。

就職活動の開始時期を見ると、3年生夏休みにインターンシップに参加し、就職活動を開始した学生が増加する一方、4年生になる前後の3月、4月に始めた学生も多く、早くから積極的に動く学生と売り手市場との情報に安心し、ぎりぎりまで動き出さない学生に二分化しています。

このような就職活動の動向をふまえ、2026年卒学生に対しては動き出しを早めるよう働きかけており、例えば、各業界の有名企業を志望する学生を対象として、3年生春季に「有名企業チャレンジコース」を開催し、夏のインターンシップへの応募に向けての支援を実施しています。

2025年卒学生の内定取得先の業種内訳（8月末時点）



次年度も採用予定人数を増やす企業が多く見込まれ、採用意欲は旺盛ですが、従業員 5,000 人以上の大企業への就職は応募者多数により競争が激化しており、早期に準備を行い、用意周到を期すことが必要です。

4. 今後の就職活動

① 早期化への対応

日本の労働力人口は 2040 年には現状から約 5% 減少するため、企業は少子化で確実に減る大学の新卒者を確保しようとするでしょう。したがって、何らかの是正を迫られない限り、採用活動が早期化する流れは止まらないように思われます。

早期化の問題点は、多くの企業が採用活動を早め、一定期間に集中することにより、学業や研究活動、部活動などに打ち込む期間を短くしてしまうことにあります。

したがって、今後は限られた期間に一度ではなく選考の機会を複数設けて、学生にチャレンジしやすい環境を整えていくよう是正が図られるのではないかと思います。

早期化に対応するためには、学生は早い段階から自身のキャリアに向き合い、考えなければなりません。

ご家庭においても、様々な機会をとらえ、お子様が自分らしく豊かな人生を歩むために、「どのような人生を送りたいのか」、「何のために働くのか」など対話を重ねていただければ幸いです。

② 就職活動へのテクノロジーの活用

求人応募の際に提出するエントリーシート作成にあたり、志望動機や自己PRに生成AIを利用していると思われる文章を散見するようになりました。

エントリーシートは出せば終わりではなく、面接においてはその内容を基に質問されることが一般的であるため、借り物の言葉で体裁を整えることができたとしても、質問に答えることができなければ意味がありません。

面接でやりとりするのは人なので、内容の精度を過信することなく、個人情報の漏洩などセキュリティ面に十分注意し、生成AIはあくまで補助的に使うものという意識が求められます。

就職活動に関するテクノロジーは日々進化しており、今後は学生が対話型AIにより面接を受ける機会が増えることでしょう。学生に対して、就職活動の目的を忘れることなく、自分のオリジナリティを盛り込み、自分らしさを出すことを徹底していきたいと思えます。



一喜一憂の天気

情報学科 1年母

「大学に行こうね!」と親子で強く約束したのは高校1年生の時でした。今は私達の希望がひとつ叶い大学1年生の暑い夏を迎えています。山の上の自宅から遙か向こうに見える山頂へと毎日の勉強に足を運ぶ事は想像もしていなかったけれど、自分の学びたい事の為にこの道を選ぶ君はすごいと母は思う。雨の日も霧が山頂にかかる日も光化学スモッグか?はたまた中国からの黄砂なのか?街がぼやけて見える日も君が学校でどのように過ごしているのか気にかかる。晴天で気持ちの良い風が吹く日は君も同じ気持ちだろうか?と学校のある方角への青空をも眺める、突然の雷が鳴り響くと同時に君が無事に家に帰って来るかが心配で仕方ない成績表をとがめる気もしない程に。

寝屋川キャンパスにて思いを馳せる

電気電子工学科 1年父

私には5人の息子がいる。5人の中の末っ子だけが、私と同じく理系の大学に進学した。私も40年近く前に電通大と同様に文系のない大学で、キャンパスという華やかな響きとは程遠い無機質な校舎、閉ざされた研究室で日々過ごしていた。実はその頃、部活のリーグ戦で寝屋川キャンパスを訪れていた事がある。その時のおぼろげな記憶では、ここも似たような雰囲気だったと思う。

そして40年の時を経て、縁あって息子がこちらでお世話になる事が決まり、入学式と総会で、このキャンパスに足を踏み入れて、大変驚かされた。

まず目に留まったのは、円形の広場だ。芝生の緑が美しく、開放的な空間で伸び伸びしている学生たちの姿が思い浮かんだ。そしてOECUIノベーションセンター、こちらは圧巻でした。斬新で充実した研究設備に加え、旧校舎の松杭をリメイクした個性的で温かみに溢れる椅子たちには、伝統ある電通大のレガシーが感じられジーンとなりました。そして何よりバリア

フリーな研究室に無限の可能性を強く感じました。

この開放的な研究室のレイアウトは、これまでの研究室単位での活動のみでなく、学科を超えての人材交流が可能な場を提供して頂けており、大学側の学生への想いが伝わってきました。

更に、夏場に放送されたTV-CM「デジタルスキルで人生を切り拓け」からも大学側が提供する豊富な設備と多様なコミュニケーションから生まれる自由な発想で役立つ技術を身に付けて、社会の荒波に立ち向かってほしいという想いを汲み取れました。

今の学生は、長いコロナ禍で、常時マスクを着けていて相手の表情が読み取りにくかった事、課外活動ではクラブ活動で各種大会が中止、修学旅行も中止となった事もあり、ともすれば人との付き合い方がわからず孤立しがちだったかもしれません。これからは、恵まれた電通大の環境に感謝しつつ、多くの人と積極的にコミュニケーションを図り、勉強や部活動、サークル活動、バイトなどの学生生活を思う存分満喫してもらいたいと願っております。



大阪電気通信大学提携教育ローン オリコ学費サポートプラン

「学費サポートプラン」は入学金や授業料などの学納金を簡単なお申込み手続きでご利用いただける学校提携の学費分割払い制度です。

実質年率(固定)	「学費サポートプラン」の概要	「学費サポートプラン」のご案内
3.0%	対象費用 : 授業料・実験実習料等の学費 申込者 : 保護者等 ※保証人は原則不要 申込上限金額 : 500万円 申込方法 : Web・郵送での申込(来店不要・全国対応) 学費の振込 : 学校指定口座へ入金 必要書類 : 学納金納付書・振込依頼書など	

お支払い例

ご返済例 [ご利用金額(現金価格) 500,000円 在学期間: 1年] (令和5年9月現在)

お支払いプラン	在学中	卒業後	最終月 分割支払額	支払総額	総支払回数 (期間)
	分割支払額/回数(期間)	分割支払額/回数(期間)			
通常返済	12,000円/44回(ヶ月)		641円	528,641円	45回(ヶ月)
ステップアップ返済	1,250円/12回(ヶ月)	12,000円/44回(ヶ月)	641円	543,641円	57回(ヶ月)

※一部繰上返済も可能です(3万円以上)。繰上返済手数料で何度もご利用いただけます。

学費サポートプランなら、追加利用の際もお支払いを1本化できるので安心です。



返済テーブル表	ご利用合計金額	最低分割支払額	100万円超～150万円以下	150万円超～200万円以下	200万円超～250万円以下	250万円超～300万円以下	300万円超
	10万円以上～50万円以下	6,000円	18,000円	24,000円	30,000円	36,000円	※300万円を超える場合の最低支払額についてはホームページをご確認ください。
	50万円超～100万円以下	12,000円					

お申込みの流れ



お申込み方法

下記ホームページまたは二次元バーコードからお申込ください。

<https://www.osakac.ac.jp/>

※大阪電気通信大学HOME>キャンパスライフ>奨学金制度等について>奨学金・教育ローン>大阪電気通信大学提携教育ローン「学費サポートプラン」



株式会社オリコ株式会社 学費サポートデスク ☎0120-517-325 (お問合せ時間 9:30~17:30)

大阪電気通信大学 教育ローン利子補給奨学制度についてのご案内

本制度は本学指定の教育ローン「学費サポートプラン」を利用し、学費を納入した学生に対して、経済的支援を行うために設けている大阪電気通信大学独自の奨学制度です。

利用条件

- ・本学が提携している金融機関、株式会社オリコとの学費サポートプランを利用して学費納入をされた方を対象。
- ・主たる家計支持者一人の年収が給与所得者については支払金額が841万円以下、給与所得者以外の者については所得金額が355万円以下であること。

支給額

当該年度に支払った学費ローンにかかる利子相当額

給付期間

最短修業年限

手続方法

- ・申請は年度ごととなります。
- ・対象者には、郵送でご案内します。
- ・奨学金給付を希望する場合は、大学が指定する期日までに下記書類を学務課奨学金窓口へご提出ください。(2月中予定)
「申請書」
「当該年度の主たる家計支持者一人の所得が確認できるもの(例:源泉徴収票の写し)」
「奨学金振り込みを希望する口座の通帳コピー」

支給方法

3月末(予定)に指定の口座へお振込みします。

注意事項

- ・申請時期に休学されている方は対象外です。
- ・退学、除籍となった場合、または奨学生として適当ではないと認められるときは、その資格を取り消し、奨学金を返還いただく場合があります。
- ・「学費サポートプラン」の支払いが遅滞している場合は奨学金の支給を行いません。
- ・前期、後期の学納金等納付期日までに、学費等が未納の場合は対象外となります。

〈問い合わせ先〉

大阪電気通信大学 学務部学務課 奨学金窓口
TEL(直) **072-813-7860**
(平日 9:00~11:40、12:40~17:00)

後援会も震災復興イベント 2023年度に協力 福島県新地町復興イベントに参加



私たち大阪電気通信大学の理科教職課程の学生と視覚文化研究室の学生は、2024年3月30日、31日に福島県相馬郡新地町で大阪電気通信大学主催の「テクノフェア in 新地町」に震災復興ボランティアとして参加しました。

東日本大震災の復興支援事業、また科学の楽しさを広めることを目的として、地元の小学生を対象に科学やものづくりに関する様々な催しを行いました。

理科教職課程の学生が在籍する、工学部基礎理工学科の森田研究室では、静電気を利用した電気クラゲを作りました。電気クラゲを作るためにスズランテープを割く作業で、小学校低学年の子どもは苦戦した様子が見られましたが、学生が子どもと一緒に割いてあげることで浮いたときにキレイな電気クラゲが作ることが出来ました。また、浮かすために使ったバルーンアート用のふうせんは、バルーンアートで剣やくまさんなどにすると、子どもたちは大切に持ちながらほかのブースに回る姿が見受けられました。



工学部環境科学科の齊藤研究室では、ポリフェノールの含有量の比較と特殊インクを使ったあぶり出しを行いました。ポリフェノールの含有量の比較は小学校高学年用の少し難しい実験でしたが、薬品がポリフェノールと反応したときに含有量による色の濃さの違いを利用して、しっかりとポリフェノールを比較出来ました。ポリフェノールの含有量の比較のために用意されていたジュースや調味料だけでは物足りず、持参したジュースでポリフェノールの含有量を調べている子どももいました。また、特殊インクを使ったあぶり出しでは、子どもたちが秘密のお手紙や絵をかいて、熱を加えあぶり出せたとき、両親に自慢げに見せに行く子どもの姿が見えました。

総合情報学部ゲーム&メディア学科の視覚文化研究室では、人形を使ったアニメーション作りや光のスタンドグラス作り、太陽を浴びて色が変わるバルーン作り、また、置き盤を使ったアニメーション作りを行いました。特に人形を使ったアニメーション作りでは、学生に教えてもらいながら、小さな人形をコマ送りで撮影したものをつなげて再生し、ミニ映画を作ることが出来ました。

今回の経験から、子どもとの関わり方はもちろん、子どもにどのように伝えるとわかりやすいか等、理科教職生として大切な経験を得ることが出来ました。今後、この経験を活かして子どもにしっかりと寄り添える教員を目指して日々前進していきます。最後になりましたが、後援会の皆様にいただきましたご支援、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。今後とも応援の程よろしくお願いいたします。



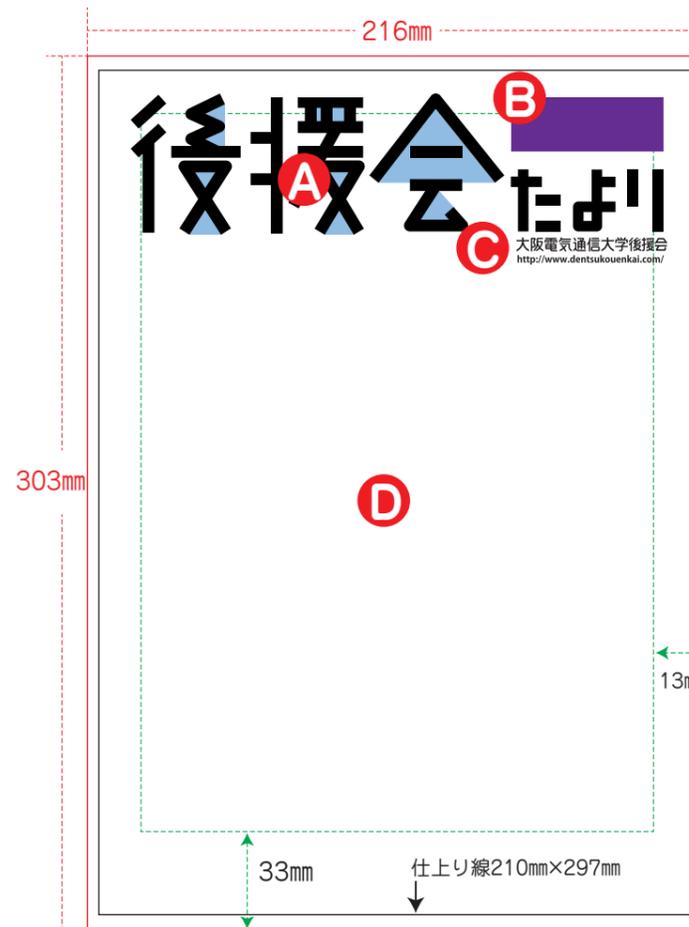
あなたのデザインで表紙を飾ってください

後援会たより No.54^{春号}, No.55^{秋号}

表紙デザイン 2025年春号・秋号 を募集します

応募対象者
本学学生
および
保護者

楽しいデザインをお待ちしています！
どしどしご応募ください！



▶サイズ：216 mm × 303 mm フルカラー
(仕上りA4 210 mm × 297 mm)

▶応募形式：Illustrator (.ai)
Photoshop (.psd)
画像データ (.jpeg)

※いずれの応募形式の際もキャンバスサイズは 216 mm × 303 mm
で解像度は 300 ~ 400pixel/inch にしてください。



- A. 後援会たより
- B. 2025年 No.54 春 発行日2025年5月1日
2025年 No.55 秋 発行日2025年10月10日
- C. 大阪電気通信大学後援会
http://www.dentsukouenkai.com/
- A~Cは必ず入ります。色は自由です。
- D. 自由にデザインしてください。
(左右上13mm、下33mmの余白が必要です)

※未発表のオリジナル作品に限ります
※フォーマットのデータがありますので後援会事務室に
お問い合わせください。

▶締切：2025年2月末日

▶お問い合わせ・提出先
後援会事務室 (P号館1階105室)
TEL 072-825-7600
E-mail: office@dentsukouenkai.com

あなたのデザインで
表紙を飾ってください！
楽しいデザイン
お待ちしております！！

応募者には、
寸志を差上げます！



大学への問い合わせ・キャンパス案内図

学生生活についてのご相談は遠慮なくお申し出ください。担当部署は次のとおりです。

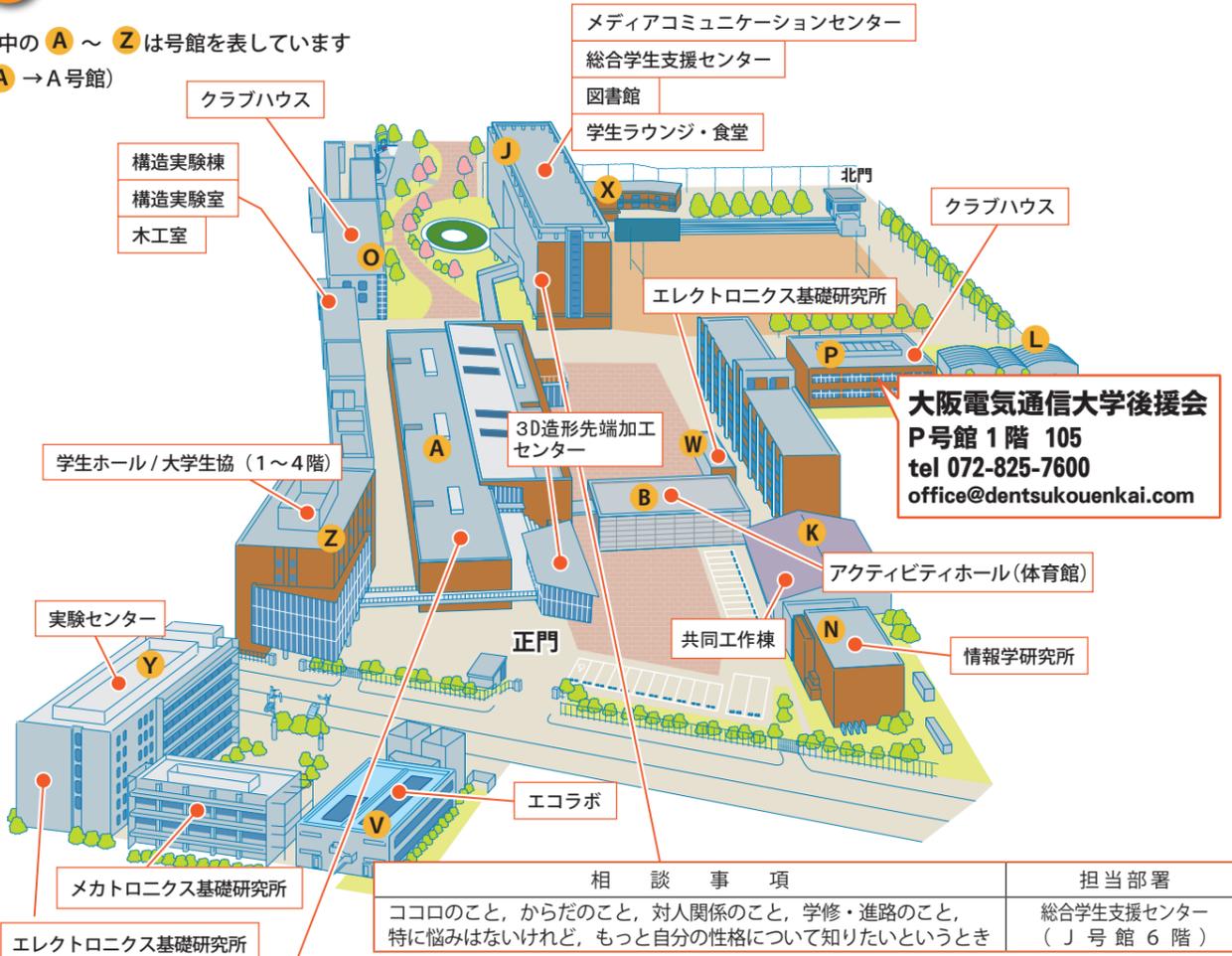
寝屋川キャンパス

〒572-8530 寝屋川市初町18-8
TEL 072-824-1131 (代)

- 学部**
- 工学部**
 - ㊸電気電子工学科 ㊹電子機械工学科 ㊺機械工学科
 - 基礎理工学科 (㊻数理科学専攻/㊼環境化学専攻)
 - 情報通信工学部**
 - ㊽情報工学科 ㊾通信工学科
 - 建築・デザイン学部**
 - 建築・デザイン学科 (㊿建築専攻/①空間デザイン専攻)

大学院 工学研究科 工学専攻 (先端理工学コース, 電子通信工学コース, 制御機械工学コース, 情報工学コース, 建築学コース)

図中の A ~ Z は号館を表しています
(A → A号館)



相談事項	担当部署
ココロのこと, からだのこと, 対人関係のこと, 学修・進路のこと, 特に悩みはないけれど, もっと自分の性格について知りたいというとき	総合学生支援センター (J号館6階)

OECUIノベーションスクエア (A号館)	
相談事項	担当部署
教育課程, 履修登録, 授業, 試験, 成績, 進級, 卒業, 欠席届, 転科願, 転部願, 成績関係の証明書及び卒業証明書の発行, クラブなど課外活動, 奨学金制度, 下宿, アルバイト, 学生の身体状況, 休学・退学の願い出, 学費延納願, 保証人変更届, 住所変更届, 在学証明書, 学割, 健康診断証明書の発行等に関すること	学務課
海外留学 (オンラインプログラムを含む), 留学生と在学生との交流に関すること	国際交流センター
就職に関すること	寝屋川就職課
課外講座に関すること	資格学習支援センター
学費に関すること	会計課
大学院入学試験及び編入学試験に関すること	入試課

四條畷キャンパス

〒575-0063 四條畷市清滝1130-70 TEL 072-876-3317

- 学部**
- 医療健康科学部**
 - ㊸医療科学科 ㊹理学療法学科 ㊺健康スポーツ科学科
 - 総合情報学部**
 - ㊻デジタルゲーム学科 ㊼ゲーム&メディア学科 ㊽情報学科

大学院 医療福祉工学研究科 医療福祉工学専攻
総合情報学研究科 総合情報学専攻 (デジタルアート・アニメーション学コース, デジタルゲーム学コース, コンピュータサイエンスコース)

図中の 1 ~ 12 は号館を表しています
(1 → 1号館)



四條畷キャンパス (1号館)	
相談事項	担当部署
教育課程, 履修登録, 授業, 試験, 成績, 進級, 卒業, 欠席届, 転科願, 転部願, 成績関係の証明書及び卒業証明書の発行, クラブなど課外活動, 奨学金制度, 下宿, アルバイト, 学生の身体状況, 休学・退学の願い出, 学費延納願, 保証人変更届, 住所変更届, 在学証明書, 学割, 健康診断証明書の発行等に関すること	四條畷学務課
学費に関すること	学事・会計課
就職に関すること	四條畷就職課
課外講座に関すること	資格学習支援センター
ココロのこと, からだのこと, 対人関係のこと, 学修・進路のこと, 特に悩みはないけれど, もっと自分の性格について知りたいというとき	総合学生支援センター



後援会 たよ No.53 秋

2024 (令和6) 年11月20日発行

編集発行：大阪電気通信大学後援会

〒572-8530 寝屋川市初町18-8 (P号館1階 105室)

TEL 072-825-7600 / FAX 072-825-7611

<http://www.dentsukouenkai.com/>

E-mail : office@dentsukouenkai.com

印刷：共同プリント株式会社

